



積水化学工業株式会社
2021年度(2022年3月期)
第2四半期

決算および経営計画進捗説明会

代表取締役社長
加藤 敬太

2021年10月28日

2021年度上期実績

為替レート	2020年度 上期	2021年度 上期	2021年度 期初計画
前提	¥109/US\$ ¥121/€	¥108/US\$ ¥130/€	¥105/US\$ ¥127/€
実績 *期中平均	¥107/US\$ ¥121/€	¥110/US\$ ¥131/€	-

2021年度上期 損益概要

- COVID-19影響長期化、原材料高騰の影響拡大も全社で大幅増収、大幅営業増益
- 営業利益および経常利益は見通し(7月)を超過
- 航空機需要低迷長期化によりAerospace社のれん等を減損損失(495億円)計上
- 中間配当は計画通り、1円増配となる24円を実施

(億円)	2020年度 上期実績	2021年度 上期実績	増減	2021年度 上期見通し (7月)	差異
売上高	4,900	5,479	+579	5,483	▲4
営業利益	224	355	+131	317	+39
経常利益	207	410	+203	332	+78
親会社株主に帰属する 当期純利益	130	▲39	▲169	259	▲298
配当 (円/株)	23	24	+1	24	0

2021年度上期 カンパニー別売上高・営業利益

■ COVID-19影響長期化、想定以上の原材料高騰、半導体不足影響拡大も、高機能品拡販、新築売上棟数増、売値改善および固定費抑制等により、各セグメントとも大幅営業増益、見通し(7月)を上回る

- ・高機能P: 原料高騰、半導体不足影響拡大も、戦略3分野を中心に「数量・構成」増により大幅増収増益、営業利益見通し(7月)超過達成
- ・住宅: 部材高騰影響も、受注好調、固定費抑制により増収増益、営業利益見通し(7月)超過達成
- ・環境LL: 原料高騰拡大、国内非住宅需要回復遅れも、売値改善、重点拡大製品拡販、固定費抑制により営業増益、見通し(7月)超過達成
- ・メディカル: 国内外検査需要の順調な回復を背景に大幅増収増益。見通し(7月)を上回り上期最高益達成

(億円)	2020年度 上期実績		2021年度 上期実績		増減		2021年度 上期見通し(7月)		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	1,391	92	1,701	193	+310	+102	1,707	180	▲6	+13
住宅	2,306	130	2,498	148	+192	+18	2,540	145	▲42	+3
環境LL	962	25	961	32	▲1	+7	937	25	+24	+7
メディカル	319	25	397	49	+78	+24	374	44	+22	+5
その他	15	▲42	19	▲52	+4	▲10	25	▲57	▲5	+5
消去又は 全社	▲93	▲6	▲96	▲15	▲4	▲9	▲100	▲20	+4	+5
合計	4,900	224	5,479	355	+579	+131	5,483	317	▲4	+39

*高機能P=高機能プラスチックカンパニー *住宅=住宅カンパニー *環境LL=環境・ライフラインカンパニー

2021年度上期(1Q、2Q別) カンパニー別売上高・営業利益

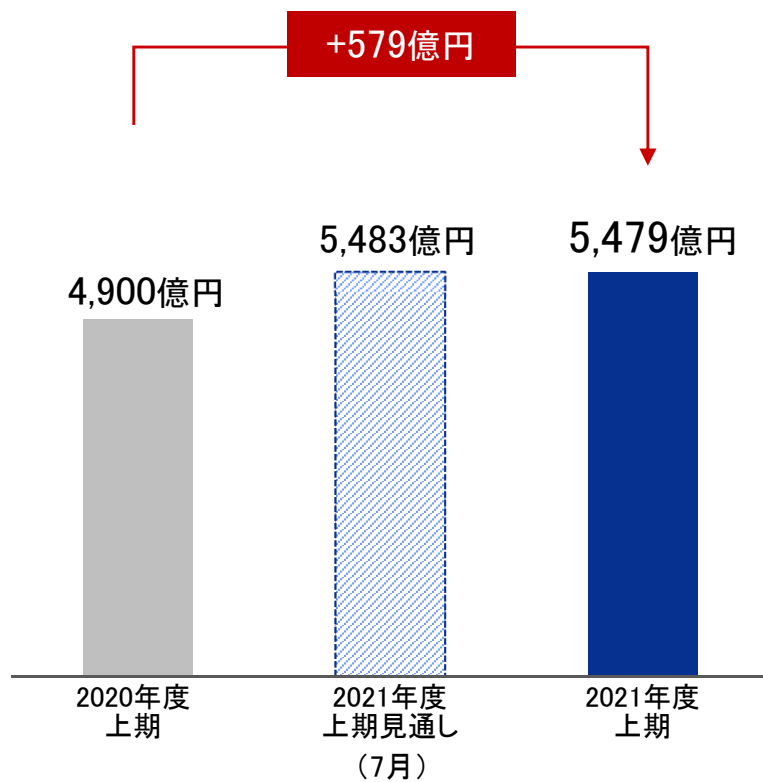
■ 2Qは原材料高騰および半導体不足の影響拡大も、各セグメントとも増収増益確保

(億円)	2020年度 1Q実績		2021年度 1Q実績		2020年度 2Q実績		2021年度 2Q実績	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	620	25	839	104	771	67	862	89
住 宅	961	4	1,055	12	1,345	126	1,442	136
環境LL	448	0	442	4	514	25	519	28
メディカル	153	11	184	23	166	14	213	26
その他	8	▲20	8	▲23	7	▲22	11	▲29
消去又は 全社	▲44	▲6	▲42	▲9	▲49	0	▲54	▲7
合計	2,148	15	2,486	111	2,753	209	2,993	244

2021年度上期 業績分析

- 想定以上の原材料高騰を、「数量・構成」大幅増、「売値」改善、「固定費抑制」等によってカバーし、全社で大幅増収、大幅営業増益
- 営業利益見通し(7月)を超過達成

売上高



営業利益増減要因分析

	連結増減	為替	数量・構成	売値	原料	CR等	固定費	合計
上期増減見通し(7月)	0	+4	+221	+17	▲99	+42	▲93	+93
上期増減	0	+4	+232	+24	▲118	+52	▲65	+131

高機能P +128
住宅 +54
環境LL +21
メディカル +32

2020年度上期 224億円 → +131億円 → 2021年度上期 合計 355億円

1Q増減	+1	▲1	+147	+1	▲37	+23	▲36	+96
2Q増減	0	+5	+85	+23	▲80	+29	▲29	+35

Aerospace社概況と今後の展開

- 航空分野への本格参入を目的に買収(19年11月:544億円) 減損損失計上もポートフォリオ改革を進め、成長を目指す

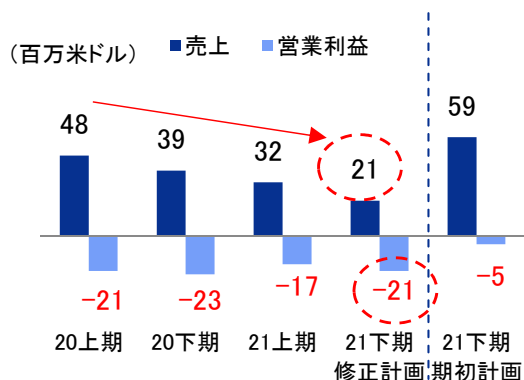
航空機市場とAerospace社の状況

大手顧客主要機材の生産状況

時期/	機材	生産状況
買収時 (19年11月)	787	生産レート14機/月
	737	生産レート57機/月 → 事故発生により運行停止 ※事故影響については19年上期に収束と予想
20年9月	787	20年10機/月 → 21年6機/月へ減産
	737	22年までに徐々に31機に増やし、 その後は市場動向に合わせて生産を増やす
21年6月	787	5機/月以下で生産を継続し徐々に5機/月へ戻す
	737	22年までに徐々に31機/月に増やし その後は市場動向に合わせて生産を増やす

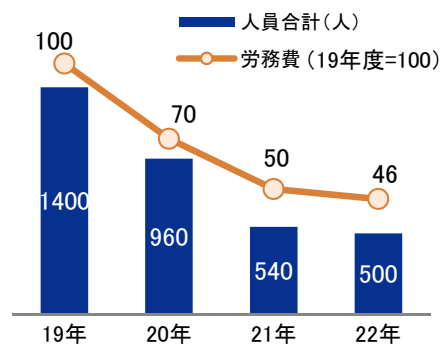
Aerospace社業績推移

- ・ 航空機市場の需要減長期化により売上高減少続く



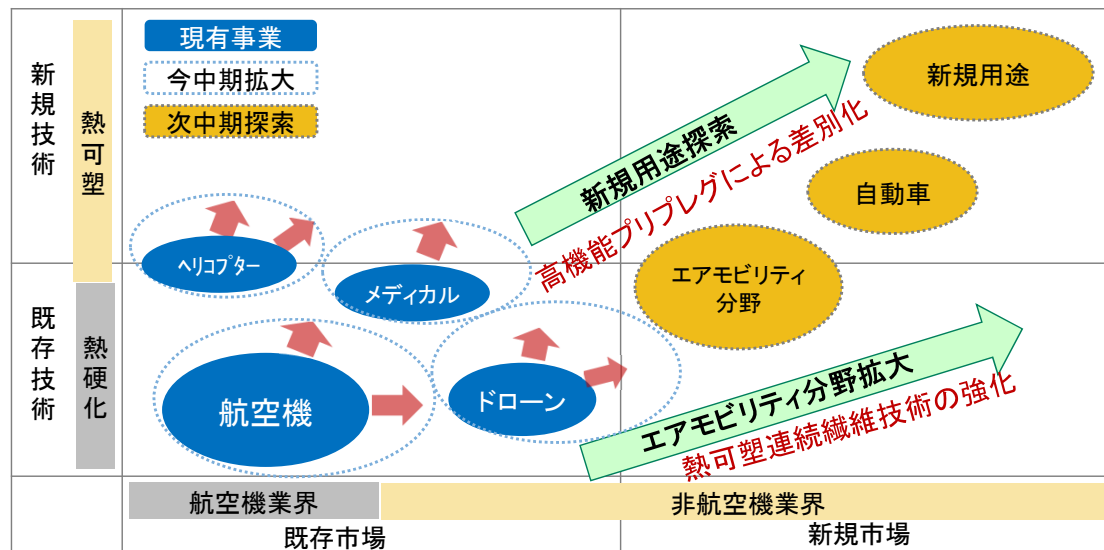
構造改革

- ・ 生産拠点統合(1拠点閉鎖)、合理化施策実行
- ・ 生産性改善継続中



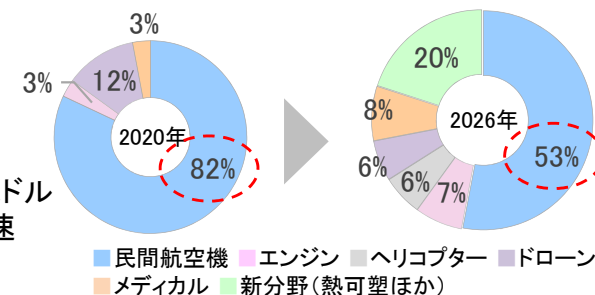
ポートフォリオ改革・シナジー展開の加速

- ・ CFRP成型技術をベースに、グローバル販売チャネルを活用した他用途(メディカル、自動車分野)展開および地域開拓
- ・ 熱可塑性CFRPプリプレグ技術の活用による成型品生産性向上



分野別売上構成

- ・ 航空機向け依存度を下げ収益源の多角化を図る
- ・ シナジー売上20年度11百万米ドル → メディカル用途等実績化加速



今後の展開

- ・ 今後もモビリティ分野(航空機、ドローン等)における軽量化ニーズは拡大
- ・ 航空機需要は徐々に回復、伸長
- ・ シナジー効果による用途拡大(特殊手術台、航空機用エンジンファンブレード等)
- ・ 熱可塑性連続繊維技術の強化による新用途開拓
- ・ 売値改善による採算性の向上

2021年度 下期修正計画および 通期修正計画

為替レート	2020年度 下期	2021年度 下期修正計画	2021度 期初計画
前提	¥105/US\$ ¥126/€	¥110/US\$ ¥129/€	¥105/US\$ ¥127/€
実績 *期中平均	¥105US\$ ¥126/€	-	-

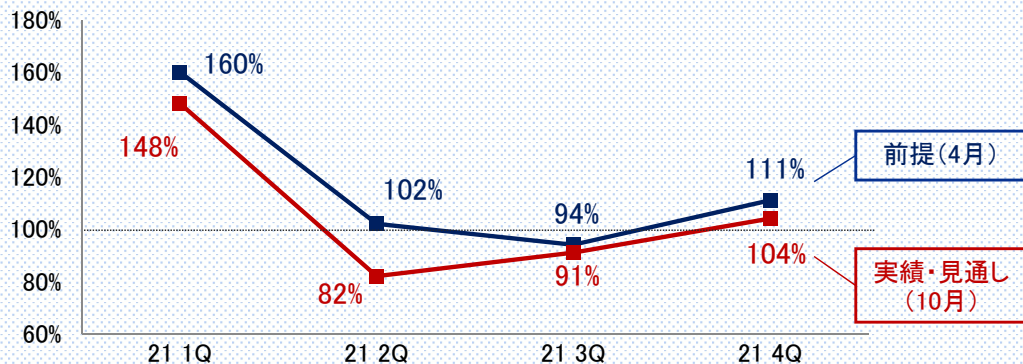
市況見通し

■ 自動車需要は期初前提を下回る。スマホ市況は安定的に推移。原料は更に高騰する見通し

グローバル自動車生産台数

*前年同期比

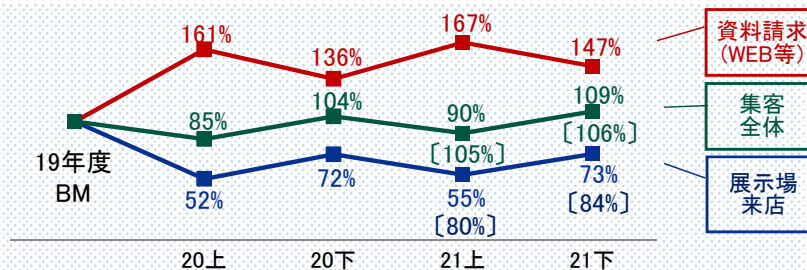
半導体不足影響拡大により下期も前提を下回る見通し。4Qより緩やかに回復を見込む



住宅・集客

*19年度同期比。※〔〕内は21年度期初想定

展示場来店は上期はCOVID-19影響受けるも、下期より徐々に回復。WEB集客は引き続き堅調に推移

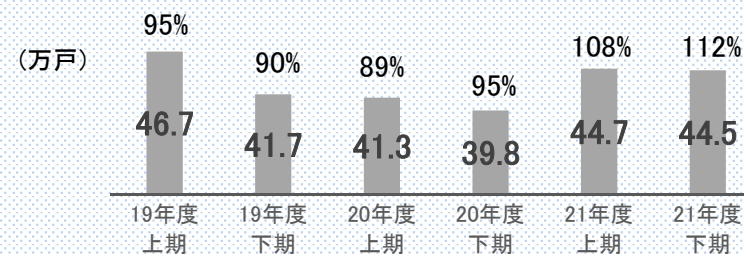


新設住宅着工

需要は復調基調継続

※ 環境LL各製品の需要発現: 住宅着工後4~6ヶ月

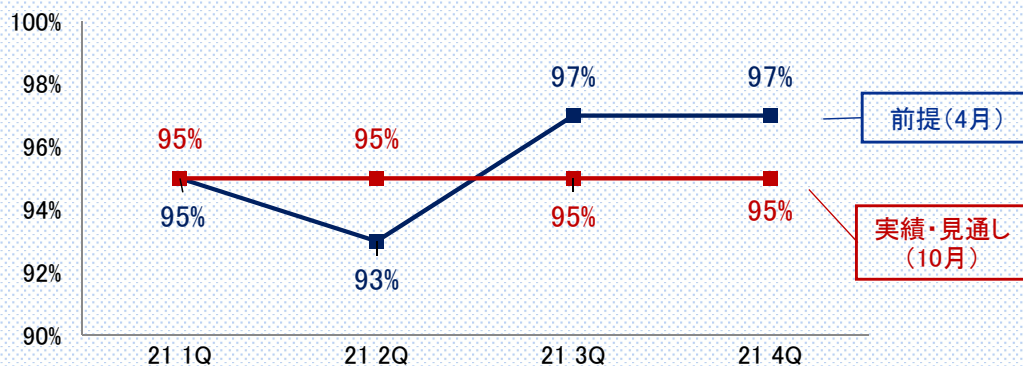
(前年同期比)



スマホ出荷台数

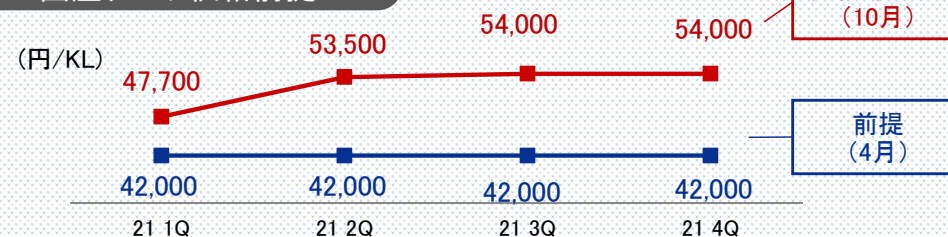
*前年同期比

2Qは前提を上回って推移するも、半導体不足影響長期化により下期は前提を下回る見通し



国産ナフサ価格前提

(円/KL)



2021年度下期修正計画 カンパニー別売上高・営業利益

■ 一段の原材料高騰・半導体不足影響長期化リスクを、売値改善、高機能品拡販による構成改善、CRおよび固定費抑制により跳ね返し、ほぼ期初計画通り大幅増益を狙う

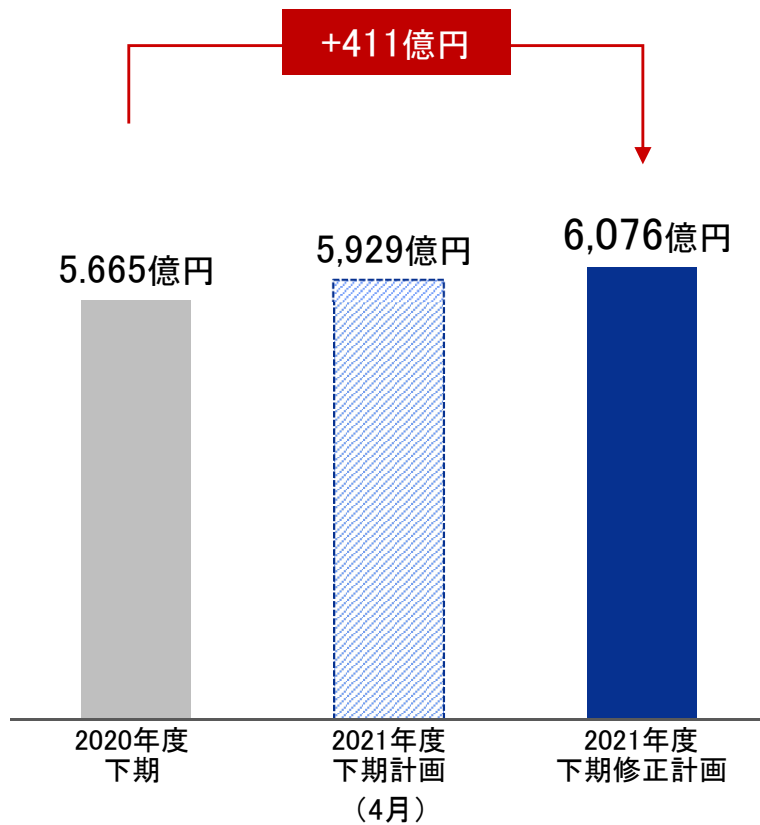
- ・高機能P: 更なる原料高騰影響を売値改善、CRで最小化。高機能品拡販により増益を継続し、期初計画(4月)を上方修正
- ・住宅: 部材高騰影響拡大も、売上棟数増、コスト削減で跳ね返し、大幅増収増益を狙う
- ・環境LL: 引き続き売値改善、重点拡大製品拡販および海外売上増に注力し、増収増益見通し
- ・メディカル: 引き続き検査需要の回復、および新規原薬拡販により、期初計画(4月)通り年度最高益更新を狙う

(億円)	2020年度 下期実績		2021年度 下期修正計画		増減		2021年度 下期計画(4月)		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	1,708	198	1,793	227	+85	+29	1,712	219	+80	+8
住宅	2,546	175	2,752	222	+206	+47	2,710	225	+42	▲3
環境LL	1,084	87	1,155	118	+71	+31	1,138	118	+17	0
メディカル	404	45	431	51	+27	+6	426	56	+6	▲5
その他	21	▲46	36	▲52	+15	▲6	43	▲54	▲8	+2
消去又は 全社	▲99	▲11	▲92	▲21	+7	▲10	▲100	▲20	+8	▲1
合計	5,665	449	6,076	545	+411	+97	5,929	544	+146	+1

2021年度下期修正計画 業績分析

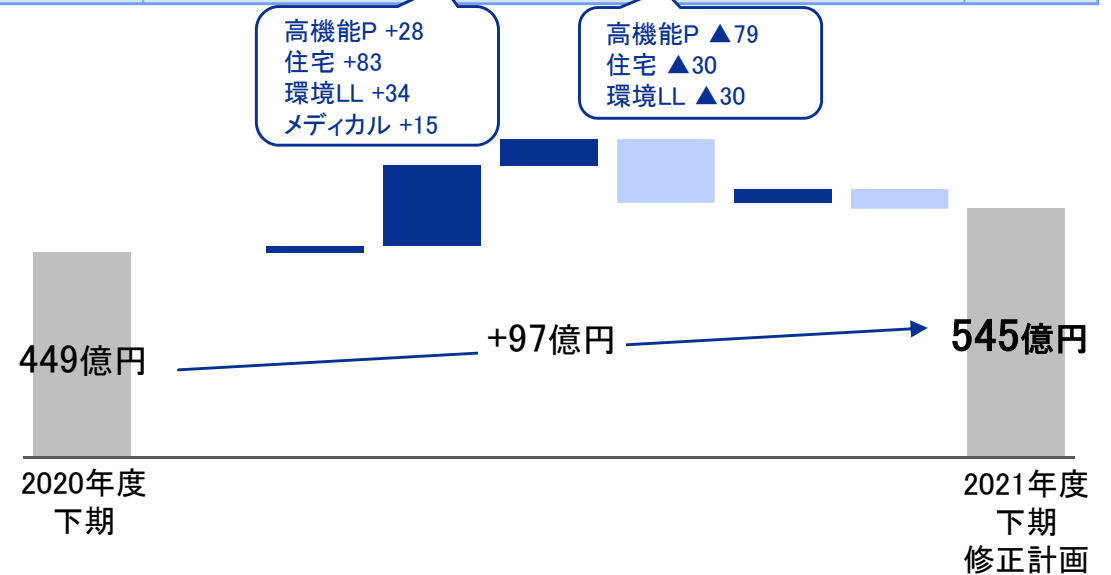
- 一段の原材料高騰影響を、売値改善、CRで最小化。半導体不足影響長期化も、新築売上棟数増、高機能品拡販による構成改善を進め、大幅増益を継続
- ほぼ期初計画(4月)通りの営業利益を見込む

売上高



営業利益増減要因分析

	連結増減	為替	数量・構成	売値	原料	CR等	固定費	合計
下期増減計画(4月)	0	+1	+151	▲4	▲30	+22	▲46	+95
下期増減修正計画	0	+15	+177	+57	▲139	+30	▲42	+97



2021年度通期修正計画 カンパニー別売上高・営業利益

- 各セグメントとも大幅増収増益。全社売上高、営業利益を上方修正
- 長期ビジョン2030へ「仕込み」強化を継続

(億円)	2020年度実績		2021年度修正計画		増減		2021年度計画(4月)		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	3,099	289	3,494	420	+395	+131	3,333	380	+161	+40
住宅	4,853	305	5,250	370	+397	+65	5,250	370	0	0
環境LL	2,046	113	2,116	150	+70	+37	2,076	150	+40	0
メディカル	723	70	828	100	+105	+30	800	100	+28	0
その他	36	▲88	55	▲104	+19	▲17	68	▲104	▲13	0
消去又は全社	▲191	▲17	▲188	▲36	+3	▲19	▲201	▲36	+13	0
合計	10,566	673	11,555	900	+989	+227	11,326	860	+229	+40

2021年度通期 修正計画概要

- 大幅増収、営業利益・経常利益は大幅増益。売上高・営業利益・経常利益を期初計画(4月)から上方修正。19年度水準を超える見通し
- 最終利益は、Aerospace社減損損失計上により下方修正も、政策保有株式縮減が進み減益幅は最小限に留まる
- 収益力を一層強化し、中期計画「**Drive2022**」の達成に向け、道筋をつける
- 配当は2円増配の49円を計画(12期連続増配)

(億円)	2020年度 実績	2021年度 修正計画	増減	2021年度 計画(4月)	差異
売上高	10,566	11,555	+989	11,326	+229
営業利益	673	900	+227	860	+40
経常利益	626	940	+314	860	+80
親会社株主に帰属する 当期純利益	415	340	▲75	600	▲260
配当 (円/株)	47	49	+2	49	0

Intentionally Blank

SEKISUI

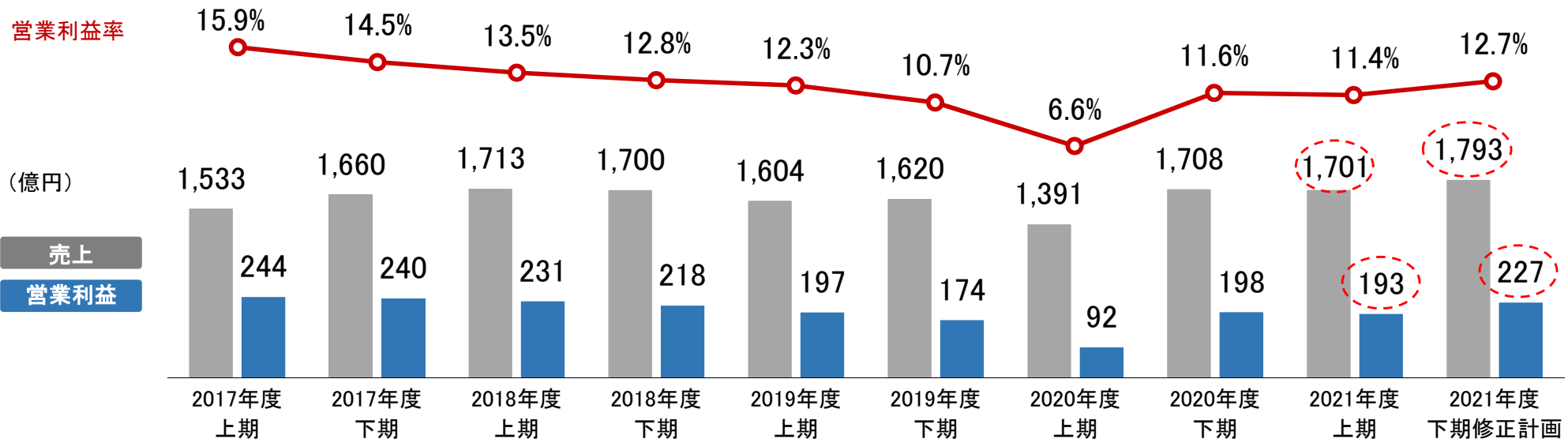
高機能プラスチック
カンパニー

カンパニープレジデント
清水 郁輔

2021年度 上期総括・下期見通し

- 上期は想定以上の原料高騰、半導体不足影響拡大も、「数量・構成」増により大幅増収増益
- 下期は更なる原料高騰影響を売値改善、CRで最小化。戦略3分野を中心とした高機能品拡販により増益継続の見通し
- 航空機需要低迷長期化によりAerospace社のれん等を減損損失(495億円)計上

業績推移



為替レート (期中平均)	FY2017上期	FY2017下期	FY2018上期	FY2018下期	FY2019上期	FY2019下期	FY2020上期	FY2020下期	FY2021上期	FY2021下期
US\$	¥111/US\$	¥111/US\$	¥110/US\$	¥111/US\$	¥109/US\$	¥109/US\$	¥107/US\$	¥105/US\$	¥110/US\$	¥110/US\$
€	¥126/€	¥133/€	¥130/€	¥127/€	¥121/€	¥120/€	¥121/€	¥126/€	¥131/€	¥129/€

*2021年度下期は前提レート

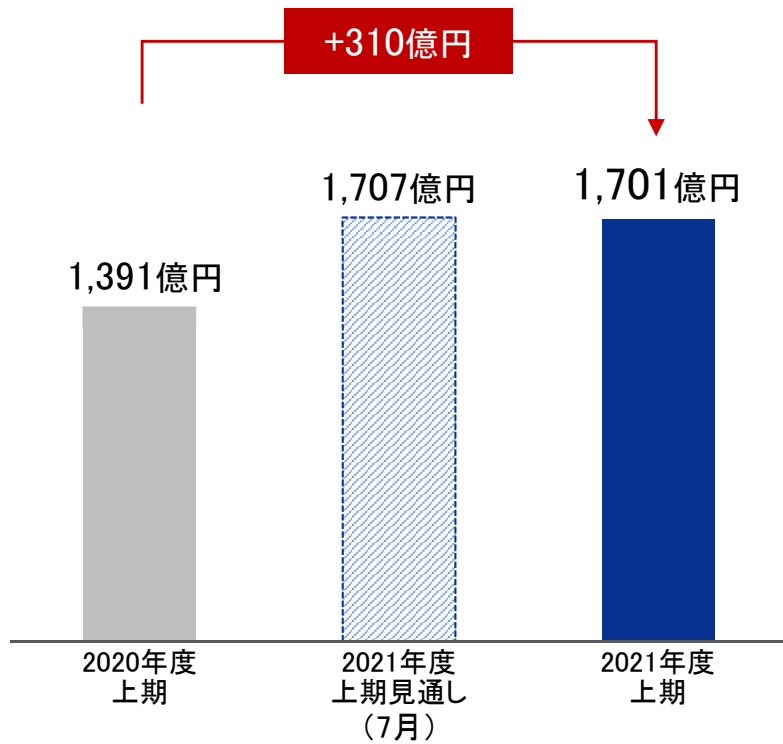
主なM&A・戦略投資

2017年9月 ポリマテック社	2017年12月 ソフランウイズ社		2019年下期 Aerospace社				2020年下期 欧州・中間膜 新ライン稼働	2021年下期 欧州・中間膜樹脂 新ライン本格稼働
	2017年12月 メキシコ・中間膜 新ライン稼働	2018年4月 国内・車輛外装 部材新工場稼働	2018~19年 タイ、中国・フォーム 新工場稼働					

2021年度上期 業績分析

■ 想定以上の原料高騰、半導体不足影響拡大も、戦略3分野を中心とした「数量・構成」増により大幅増収増益を達成。上方修正した見通し(7月)を超過し、ほぼ19年度並の営業利益水準に復活

売上高



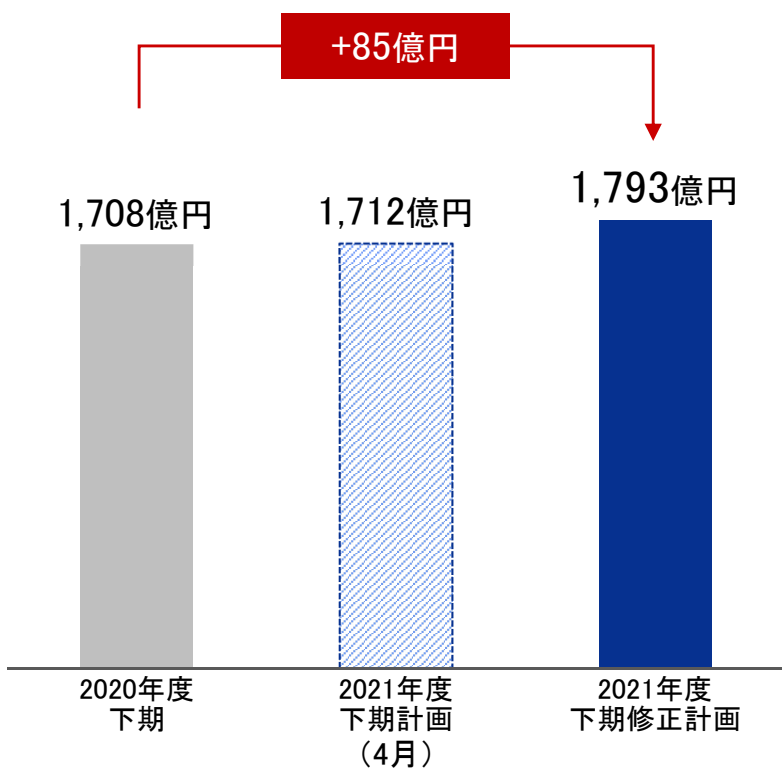
営業利益増減要因分析

	連結増減	為替	数量・構成	売値	原料	CR等	固定費	合計	
見通し(7月)	0	▲3	+119	+11	▲63	+41	▲19	+88	
上期増減	0	▲2	+128	+17	▲77	+48	▲13	+102	
エレクトロニクス +25 モビリティ +65 住インフラ材 +15									
2020年度 上期	限界利益 +116億円							92億円	193億円
1Q増減	0	▲4	+93	+1	▲25	+24	▲11	+79	
2Q増減	0	+2	+34	+16	▲52	+24	▲2	+22	

2021年度下期修正計画 業績分析

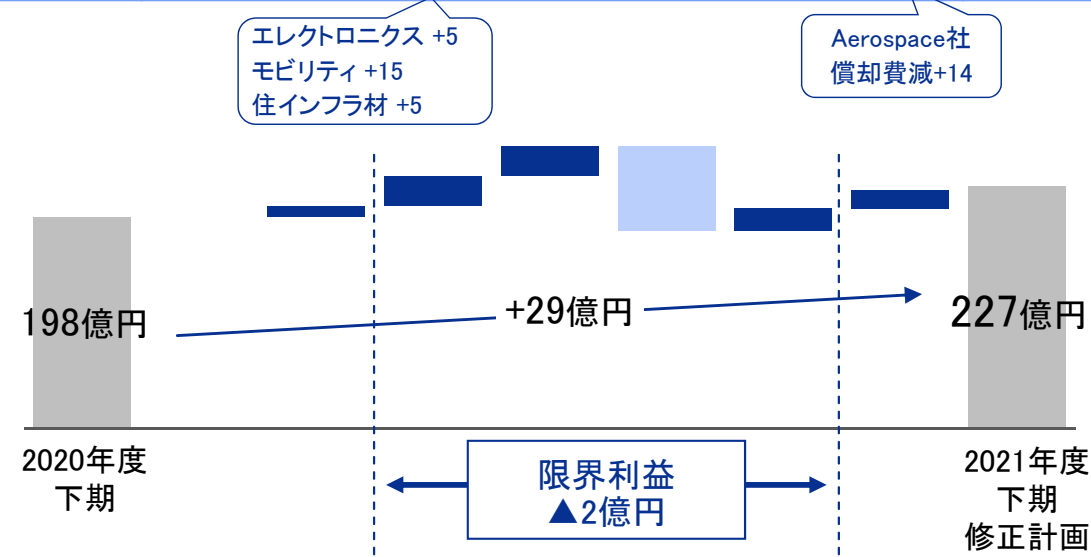
- 期初想定を大幅に上回る原料高騰影響を、「売値改善」、「CR」等で最小化。高機能品拡販、固定費抑制、および為替影響により増益見通し
- 中期計画達成に向け、成長への仕込み強化

売上高



営業利益増減要因分析

	連結増減	為替	数量・構成	売値	原料	CR等	固定費	合計
計画(4月)	0	▲1	+31	▲14	▲15	+13	+6	+21
下期増減修正計画	0	+10	+28	+28	▲79	+21	+21	+29



エレクトロニクス +5
モビリティ +15
住インフラ材 +5

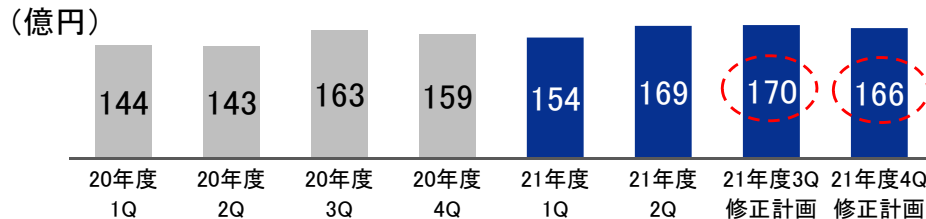
Aerospace社
償却費減+14

■ 戦略3分野とも年度増収見通し。原料高騰影響を、売値改善。エレクトロニクス分野および住インフラ材分野は順調に推移。モビリティ分野は高機能品拡販により増収確保

戦略3分野の売上高推移と進捗状況

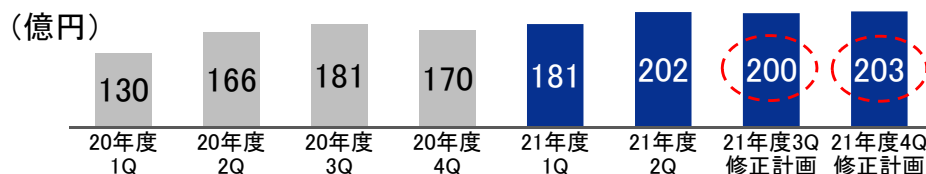
エレクトロニクス

- 上期: ほぼ計画通り進捗し増収増益確保。パネル稼働好調により液晶向け拡大。非液晶向けも堅調
- 下期: 半導体不足影響継続もMLCC向けバインダー樹脂等非液晶分野が牽引



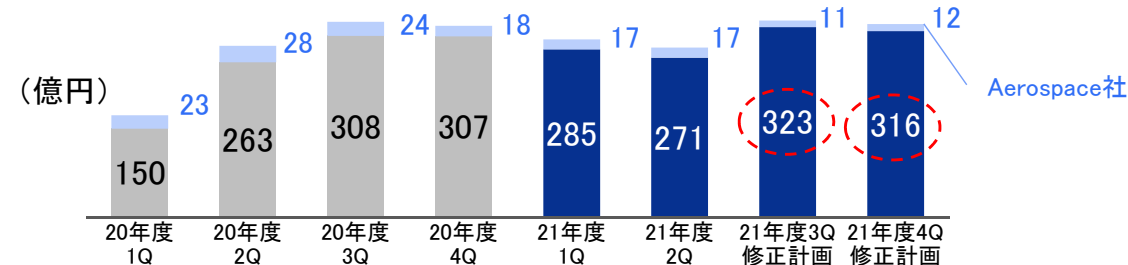
住インフラ材

- 塩素化塩ビ樹脂: 計画通り進捗。下期も需要堅調。売値改善に注力
- 耐火材料: 建築市況回復により計画通り増収。下期も需要回復継続見通し。価格修正推進



モビリティ

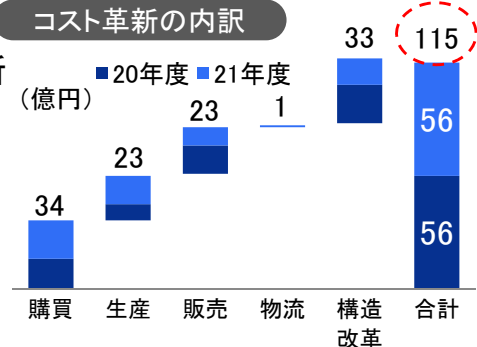
- 2Q以降、半導体不足影響が急拡大も、上期は計画を上回る。
- 下期も半導体不足影響継続を見込むも、HUD膜を中心に高機能膜拡販により増収確保の見通し(HUD膜110%超※販売量ベース)
- Aerospace社: 合理化/値上げ、PF変革による新規増分獲得
(20年度11→26年度70百万米ドル)



コスト革新

- サプライチェーン革新と事業構造改革を更に加速。中期計画(22年度累計▲80億円*1)を前倒しで達成
- 21年度は56億円*2(原計画+11億円)の利益改善見通し

- 事業構造改革 (対前年+13億円)
- サプライチェーン革新 (対前年+43億円)
- ✓ 低採算事業の抜本的見直し
- ✓ 購買最適化
- ✓ 拠点再編・最適化
- ✓ 生産性改善
- ✓ 物流コスト削減



*1 20~22年度の累計額(19年度BM)
*2 20年度対比の利益改善額

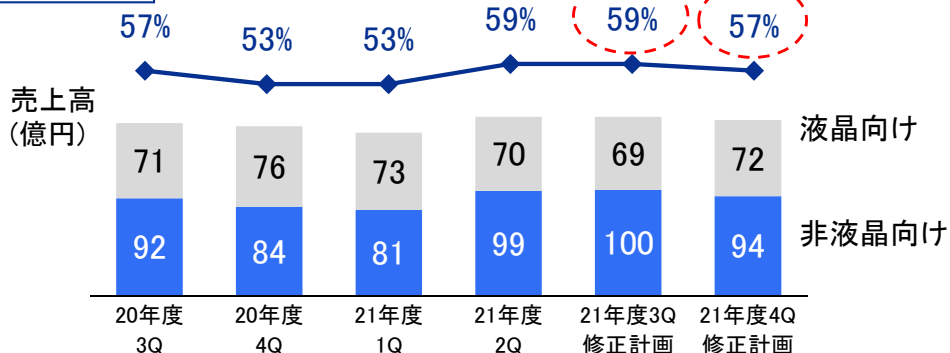
■ 戦略3分野とも持続的成長に向けた施策展開を強化。次期成長領域の育成にも注力

戦略3分野の成長施策と進捗状況

エレクトロニクス ～非液晶分野注力

- ・ 半導体向け工程材は順調に拡大。次世代高性能品開発加速
- ・ 半導体不足影響等により放熱材料成長鈍化

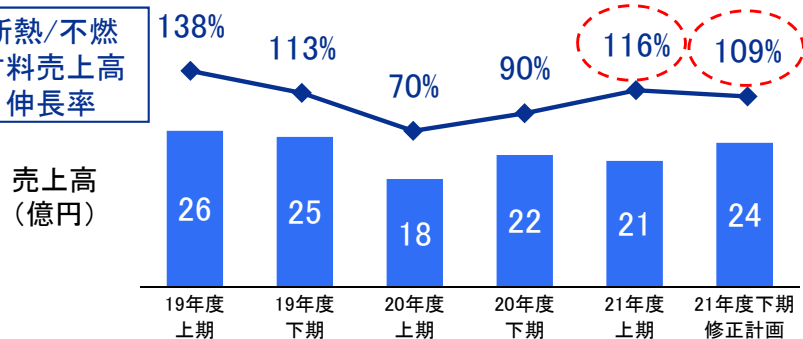
非液晶向け
売上比率



住インフラ材 ～断熱/不燃材料拡販

- ・ 断熱材料、不燃ウレタンの拡販(地域拡大、用途展開)に注力

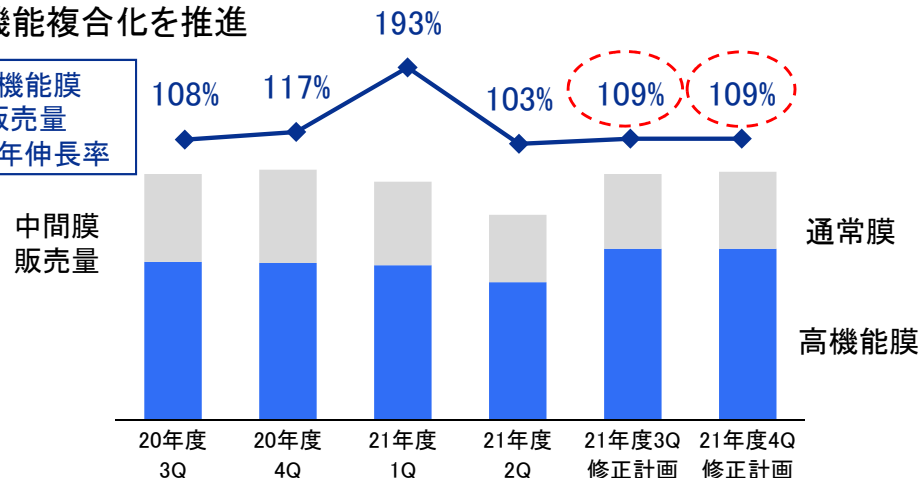
断熱/不燃
材料売上高
伸長率



モビリティ ～高機能中間膜拡大

- ・ HUD膜高成長を継続。EV化の潮流をとらえ、遮熱等、中間膜の機能複合化を推進

高機能膜
販売量
対前年伸長率

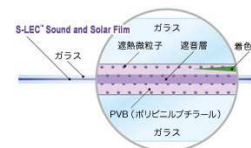


次期成長領域

エレクトロニクス	モビリティ	住インフラ材	産業
<ul style="list-style-type: none"> ・ 弾性接着剤 ・ 次世代ディスプレイ向け 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間膜の機能複合化 ・ 高性能化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省力化材料 ・ 圧電センサー ・ 遠隔監視センサー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアマテリアル



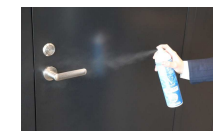
弾性接着剤(小型部品用)



遮音遮熱中間膜



遠隔監視センサー



ウィルス除去スプレー

SEKISUI

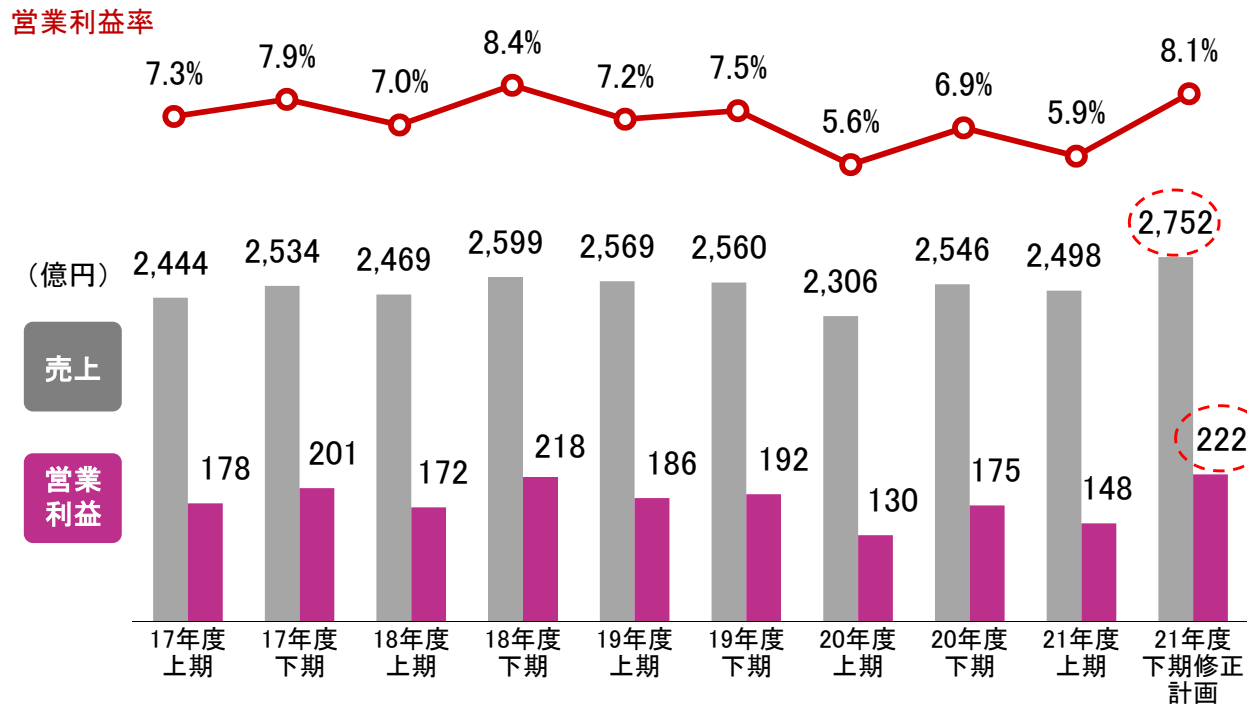
住宅カンパニー

カンパニープレジデント
神吉 利幸

2021年度 上期総括・下期見通し

- 上期は部材高騰も、受注好調・コスト削減により営業利益計画(7月)達成
- 下期は部材高騰の影響拡大も、売上棟数増、コスト削減で跳ね返し、大幅増収増益を狙う

業績推移

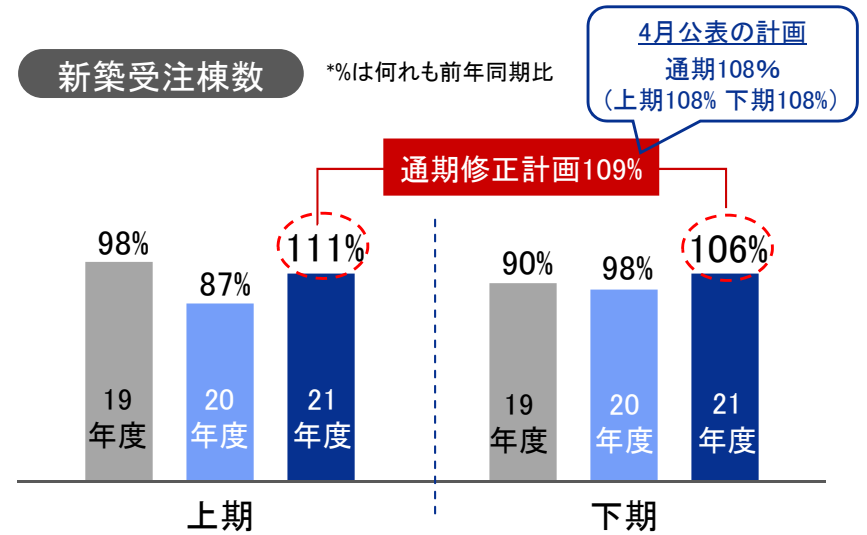


外部環境

2019年10月 2020年2月～
 消費増税 <8%→10%> COVID-19 感染拡大

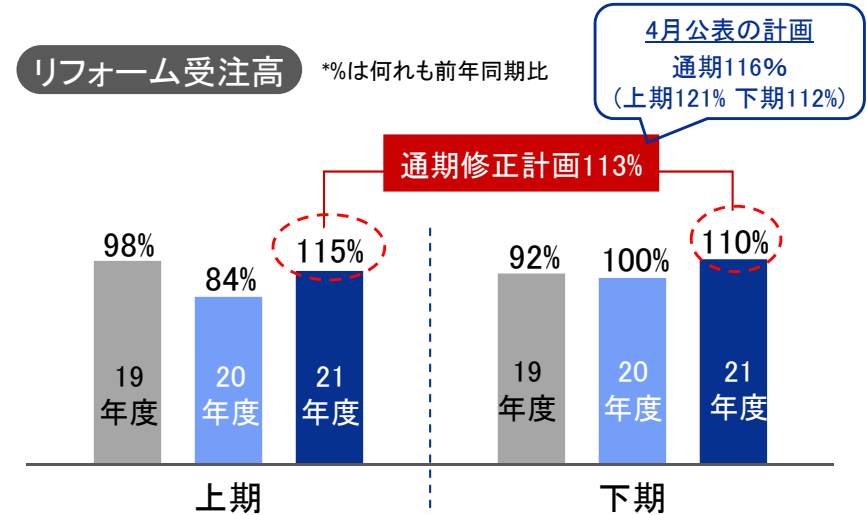
新築受注棟数

*%は何れも前年同期比



リフォーム受注高

*%は何れも前年同期比

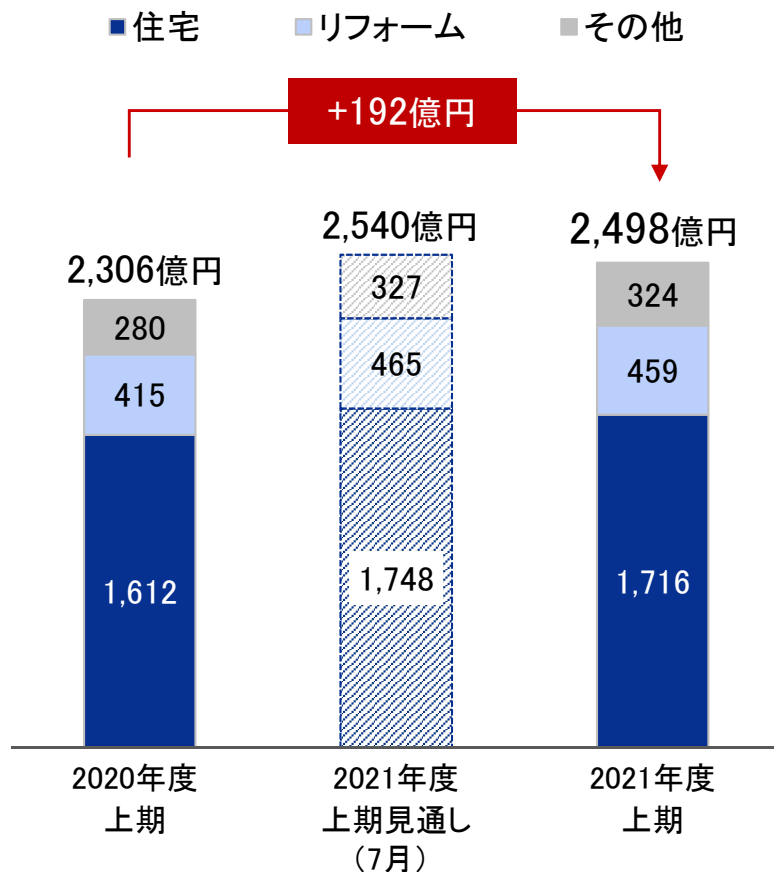


2021年度上期 業績分析

■ 工程遅れや部材高騰の影響を、コスト削減でカバーし、営業利益見通し(7月)を達成

- 住宅：部材高騰影響を、建売を中心とした売上増とコスト削減でカバーし増益確保
- リフォーム：COVID-19影響継続も、売上増により大幅増益
- その他：まちづくり事業が収益貢献。不動産事業は順調に伸長

事業別売上高



営業利益増減要因分析

	売上 要因	限界利益 要因	固定費	リフォーム 限界利益	リフォーム 固定費	その他 限界利益	その他 固定費	合計
見通し(7月)	+34	▲13	▲15	+19	▲12	+6	▲6	+15
上期増減	+20	▲8	▲11	+20	▲9	+11	▲5	+18
注釈	売上棟数+170棟 *見通し(7月)▲120棟	部材▲18 構成・CR等+10				まちづくり+6		
2020年度上期	130億円			+18億円				148億円
増減要因	住宅 +1億円			リフォーム +11億円		その他* +6億円		
1Q増減	▲3	+2	▲5	+16	▲5	+7	▲4	+8
2Q増減	+23	▲10	▲6	+4	▲4	+4	▲1	+10

* その他 (不動産・まちづくり・海外・住生活)

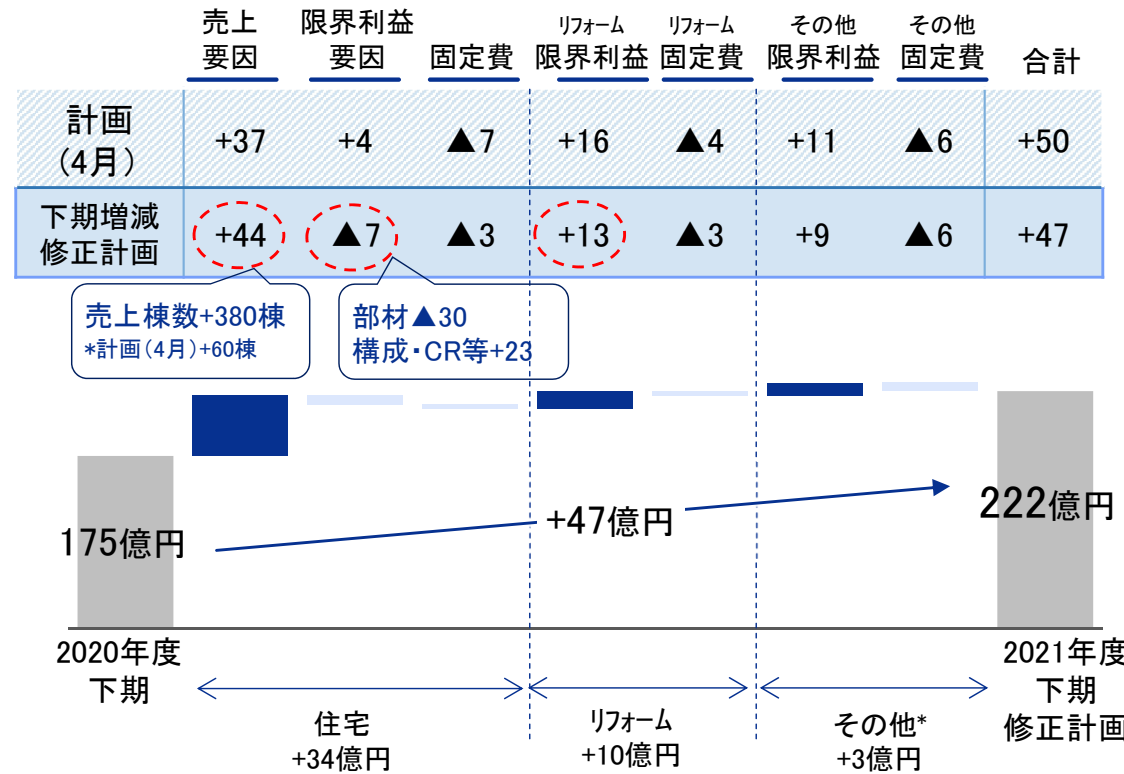
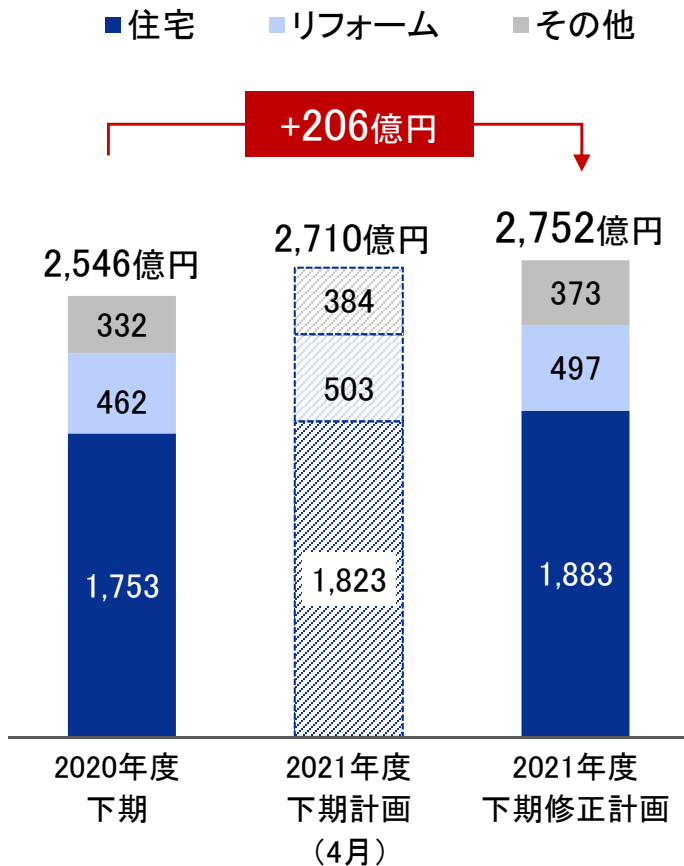
2021年度下期修正計画 業績分析

■ 部材高騰の影響拡大も、スマートハウスを中心とした売上増、コスト削減で大幅増収増益を狙う

- 住宅：上期受注好調を背景に、売上棟数増。土地戦略(分譲・建売)の推進により収益力強化
- リフォーム：COVID-19影響残るも、定期診断の拡充、重点商材の拡販により増収増益
- その他：まちづくり事業拡大加速。新規4プロジェクト販売開始

事業別売上高

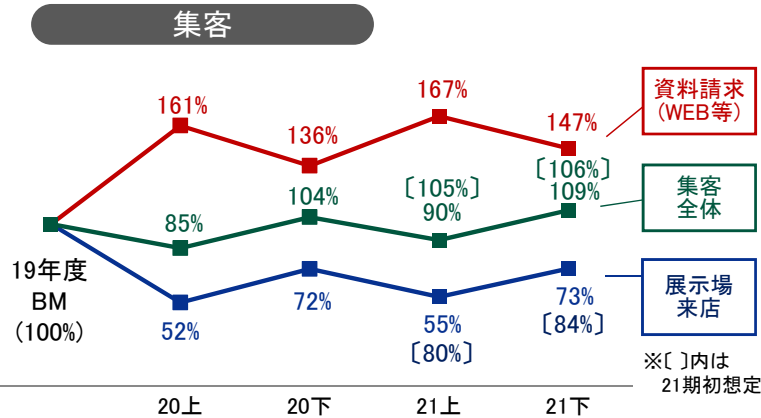
営業利益増減要因分析



* その他(不動産・まちづくり・海外・住生活)

- 50周年記念プロジェクトを推進力に、3つの成長施策(営業戦力、商品戦略、土地戦略)を進化
- 下期は19年度を超える受注確保を図る

集客推移・受注棟数実績



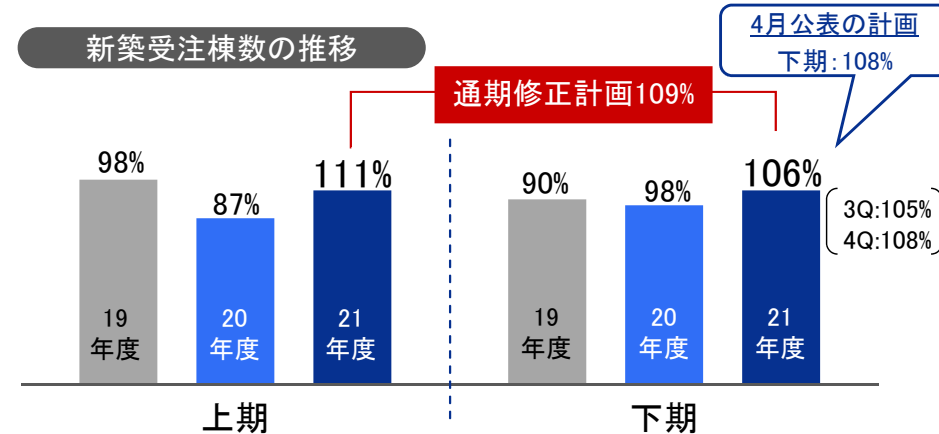
建築種別受注棟数

*%は前年同期比

	21上	21下	
戸建	建替	109%	98%
	新築*1	106%	107%
	自社分譲	124%	110%
	うち建売	119%	111%
トータル(集合含む)	111%	106%	

*1 土地 施主手配

上期受注実績・下期修正計画



下期受注獲得施策

【50周年記念】

100周年へ向け、住社会へのお礼を創出し続けていく

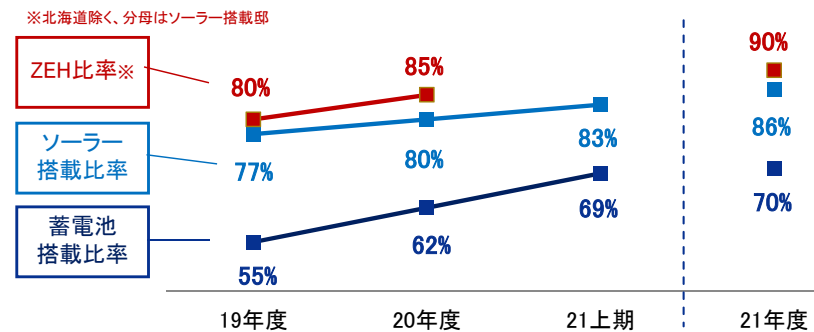
営業戦力・集客

商品戦略

土地戦略

- **バーチャル&リアル融合提案の進化**
 - ✓ WEB・オンライン活用強化
 - ✓ 【50周年】体験型施設「GREENMODEL PARK」拡大
ミュージアム含め 62拠点 (22年3月末時点) (21年9月末比: +19拠点)
- **スマート&レジリエンス訴求の更なる強化**
 - ✓ 【50周年】「新SPS FR GREENMODEL」発売(10月)
環境貢献・経済性を両立。エネルギー自給自足率を向上
- **【50周年】戸建まちづくりPRJによる拡販/仕入増強**
 - ✓ PRJをフラッグシップとして、分譲全体をけん引
成功事例の水平展開でPRJ規模を拡大
(7月時点10案件・約300区画 ⇒ 11案件・約500区画へ)

スマートハウス関連指標*

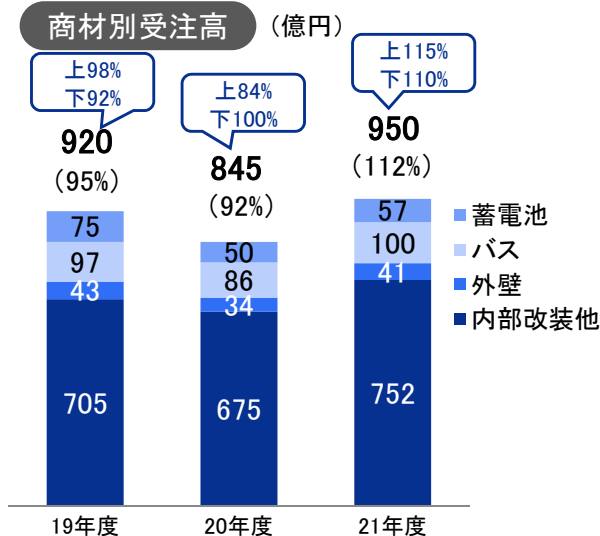


■リフォーム受注は定期診断等の各施策強化により、19年度を超える受注確保

【ストック】リフォーム

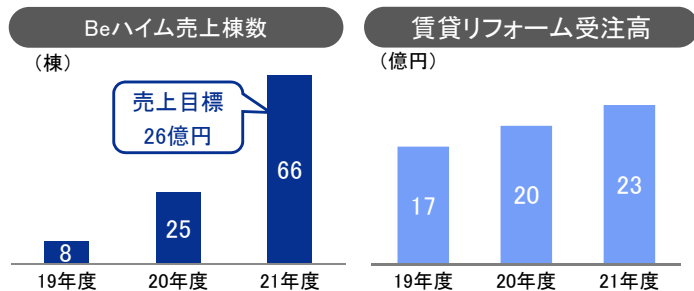
*%は前年同期比

- 営業体制**
 - 定期診断の拡充(量・質・スピード)
 - ミュージアムの展開拡大
(20年度末:12ヶ所→21年度末:25ヶ所)
- 商材**
 - 重点商材拡販
 - 大容量12kWhフィルム型蓄電池等
- 生産性改善 CS水準向上**
 - 売上平準化の推進
 - DX活用による顧客接点強化
 - オンライン商談・ウェビナーの推進
 - OB顧客マイページ新設



【ストック】不動産

- リフォームとの協業を強化
 - 【50周年】買取再販「Beハイム」拡大
販売体制強化と在庫確保に注力
 - 賃貸リフォームの受注拡大
オンライン商談・診断からの提案強化



■まちづくり事業拡大に向け体制・基盤の整備を推進。案件の進捗管理徹底

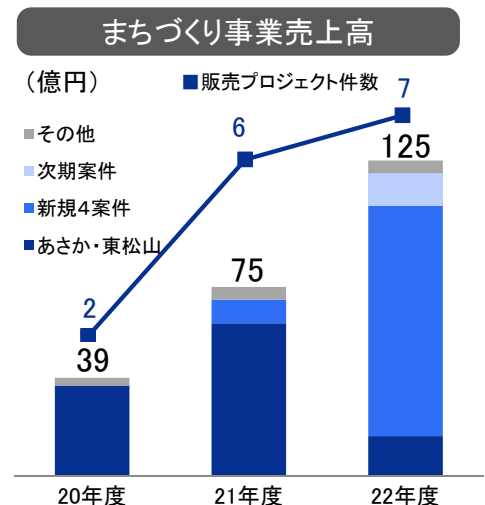
まちづくり

- 「あさか」「東松山」リードタウンの早期完売に注力
新規4案件(「新守谷」「つくば」「札幌」「西千葉」)の販売を開始
- ブランド力のさらなる強化
 - リードタウン、HEIM SUITEのウェブサイト発信強化
 - タウンマネジメント事業の展開加速
新規/既存分譲地への導入拡大
(管理戸数 20年度末:400戸→21年度末:1,100戸)

札幌平岸リードタウン(予定)

戸建 マンション
商業施設 病院

積水化学グループの隣立ち・融合による
複合型まちづくり事業を推進



SEKISUI

環境・ライフライン
カンパニー

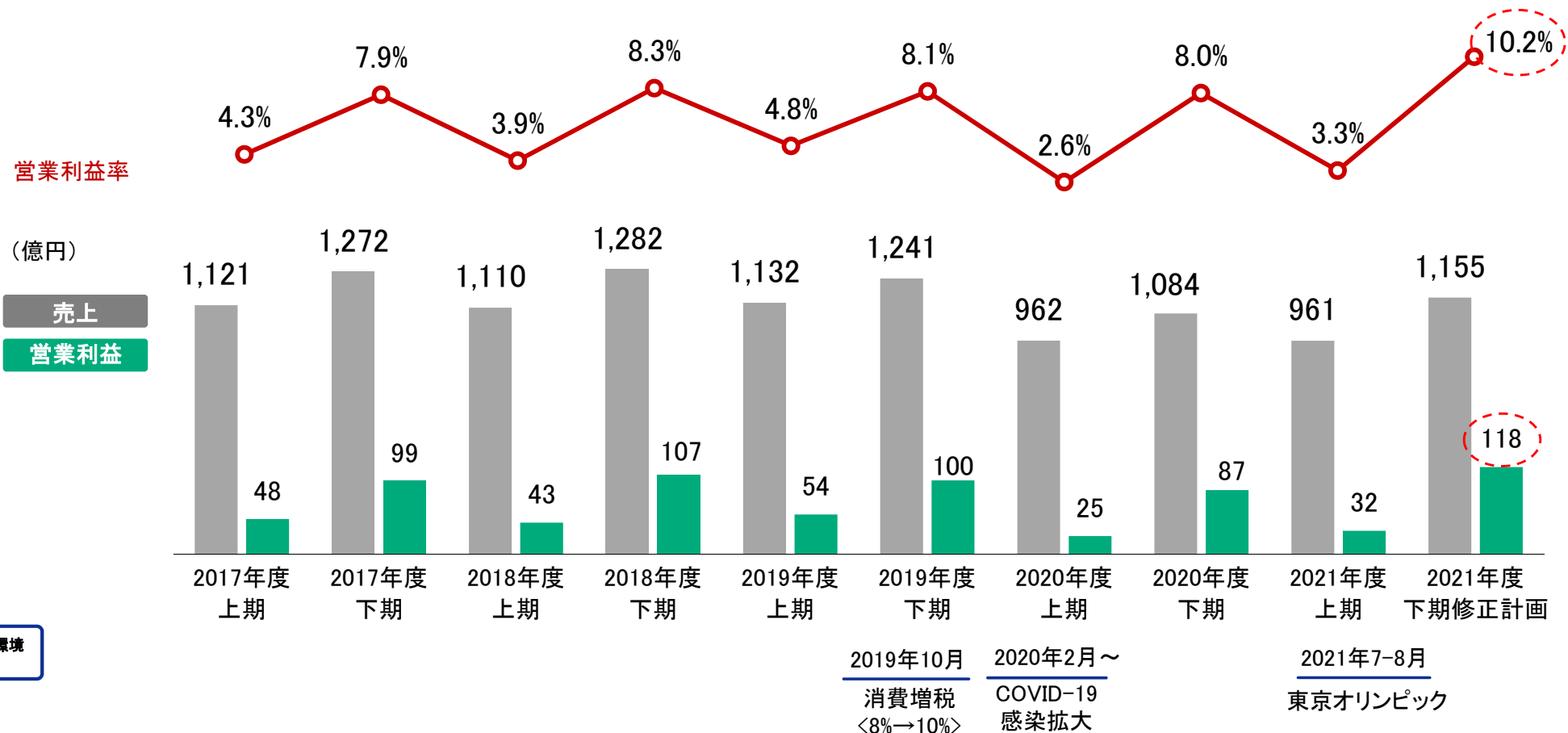
カンパニープレジデント
平居 義幸

2021年度 上期総括・下期見通し

- 上期は原料高騰、国内非住宅需要回復遅れも、売値改善、重点拡大製品拡販、固定費抑制により増益を達成
- 下期は一定の市況改善を見込み、引き続き売値改善、重点拡大製品拡販*および海外売上増に注力し、期初計画(4月)通り増収増益見通し

*重点拡大製品: 高付加価値、かつ市場成長・代替が見込める製品

業績推移

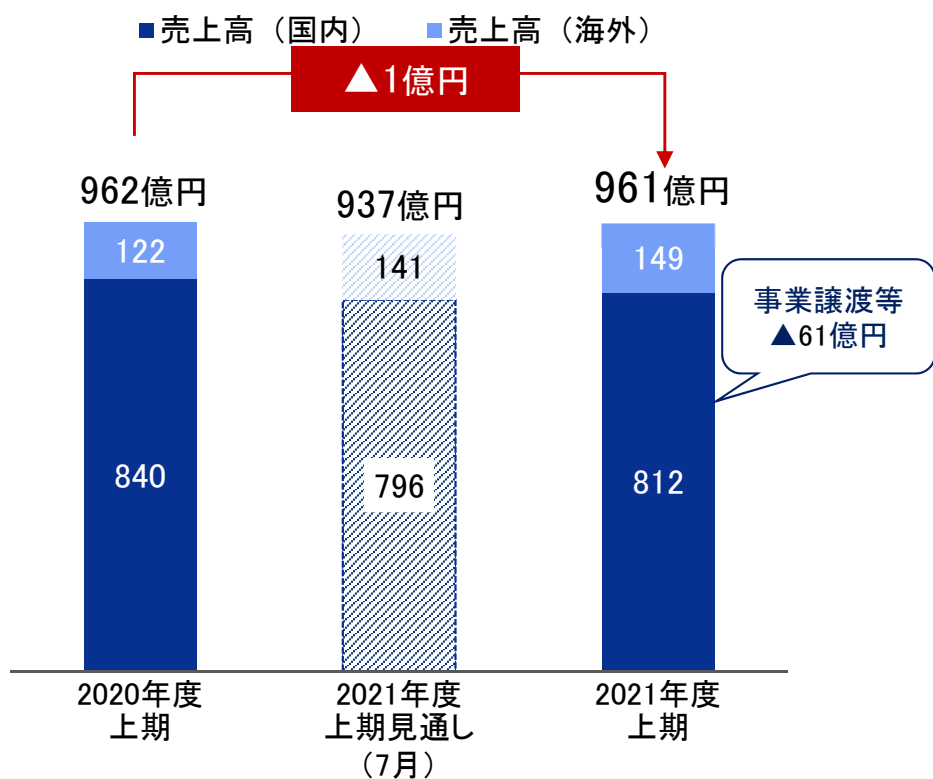


2021年度上期 業績分析

■原料高騰、COVID-19影響長期化による非住宅需要回復遅れ、工事物件遅延影響を、売値改善、重点拡大製品拡販、海外売上増、および固定費抑制により、営業利益見通し(7月)を超過達成

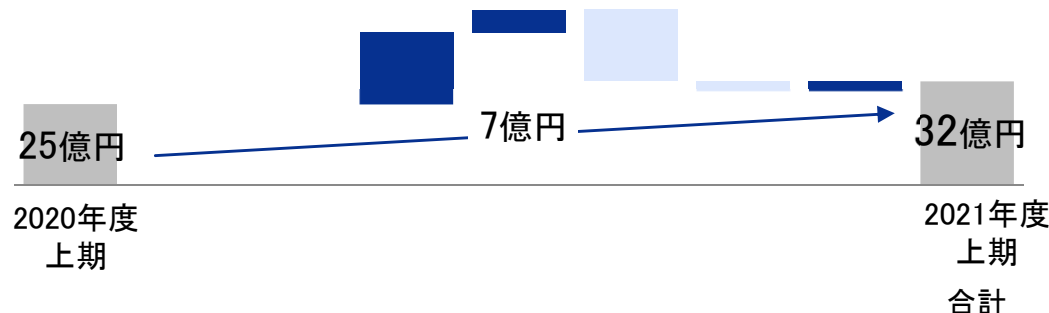
- 国内：原料高騰、COVID-19影響長期化により中小非住宅改修、工事物件遅延影響も、住宅向け需要は回復基調。重点拡大製品は伸長
- 海外：航空機向け需要は回復ペース遅い。半導体関連需要拡大継続

売上高



営業利益増減要因分析

	連結増減	為替	数量・構成	売値	原料	CR等	固定費	合計
見通し(7月)	0	+1	+22	+5	▲21	▲3	▲3	0
上期増減	0	0	+21	+7	▲22	▲3	+3	+7



1Q増減	+1	0	+13	0	▲6	▲5	0	+4
2Q増減	0	0	+8	+7	▲16	+2	+3	+3

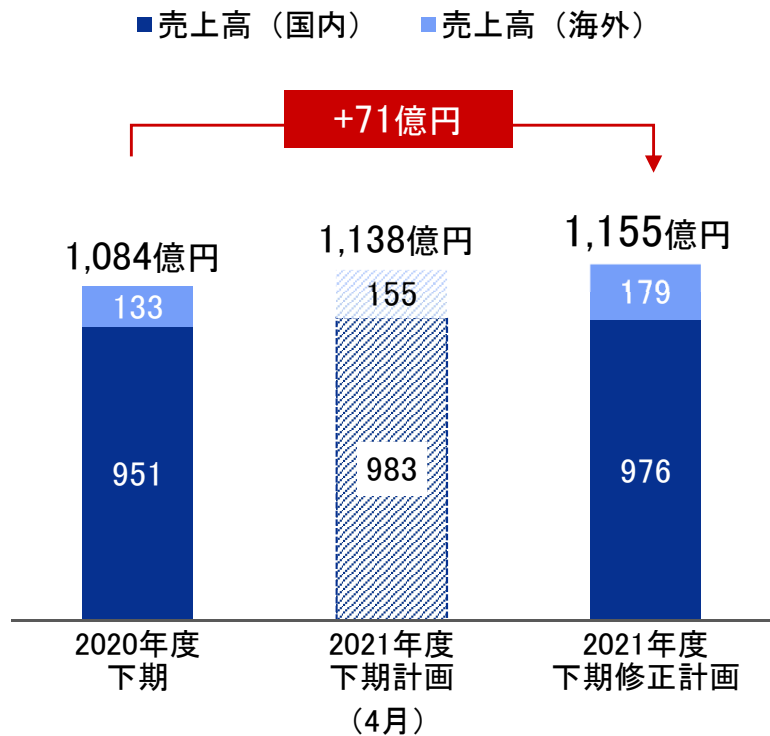
・事業譲渡等の影響除く実質ベースで60億円増収

2021年度下期修正計画 業績分析

■ 期初想定以上の原料高騰も、売値改善によるスプレッド確保、一定の市況改善を見込み、重点拡大製品拡販、海外売上増、固定費抑制でカバーして、下期最高益達成の見通し

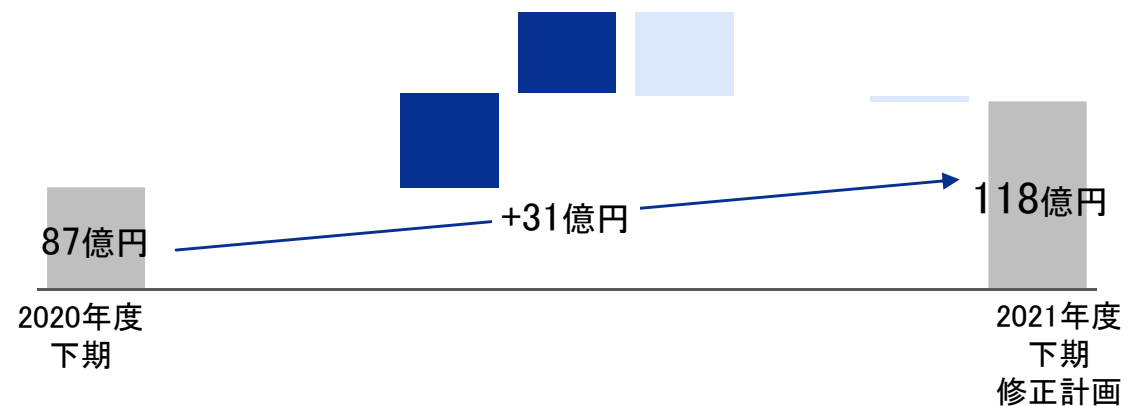
- ・ 国内: 更なる売値改善によるスプレッド確保。重点拡大製品の大幅伸長
- ・ 海外: 半導体関連需要拡大により、プラント向け管材堅調。米国シート事業は医療向けなど非航空機用途拡大。FFU物件遅延影響あるも受注は拡大

売上高



営業利益増減要因分析

	連結増減	為替	数量・構成	売値	原料	CR等	固定費	合計
計画 (4月)	0	0	+32	+11	▲9	+2	▲5	+30
下期増減修正計画	0	0	+34	+29	▲30	0	▲2	+31

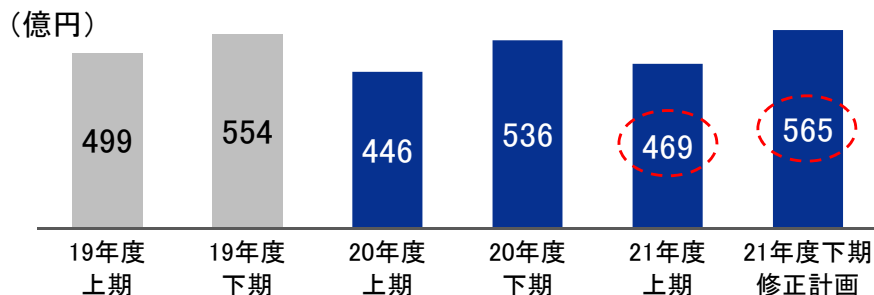


■ 戦略3分野とも年度増収(実質)を見込む

戦略3分野の売上高推移等

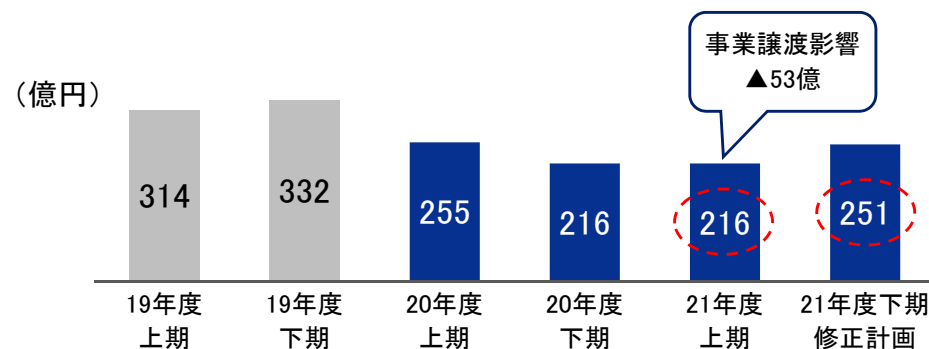
配管・インフラ

- 上期: 公共は堅調。住宅需要中心に回復基調。プラントは堅調継続
- 下期: 非住宅需要も徐々に回復。重点拡大製品を中心に増収見通し



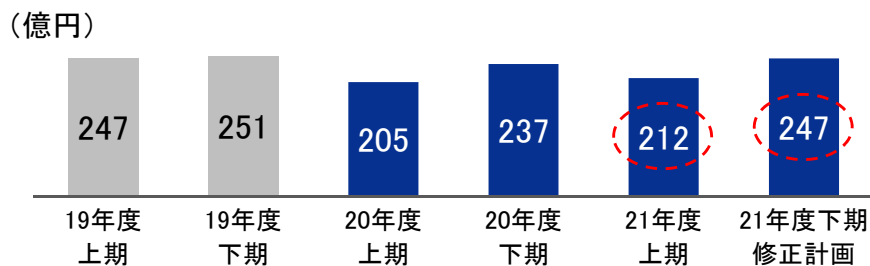
機能材料

- シート: 航空機向け需要緩やかに回復途上。医療など非航空機分野拡大は順調に進捗
- FFU(枕木用途): 物件遅延、海上運賃高騰影響も、欧州を中心に受注は堅調。米豪回復遅れも復調の兆し。欧州生産拠点新設は計画通り(22年度下期稼働開始予定)
- 高機能成型品(クリーン容器等)は順調に拡大



建築・住環境

- 上期: 住宅、リフォーム需要増により増収確保。収益性改善進む
- 下期: 新製品(自動洗浄浴槽)および介護分野拡大

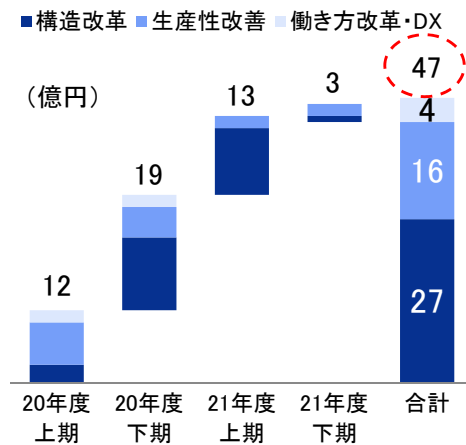


構造改革・生産性革新

- 事業構造改革等の推進により、21年度までで累計47億円*の利益改善見通し
- 中期(22年)目標▲50億円達成に向け順調に進捗

主な施策

- 生産再編(東日本)
- 生産の自動化投資推進
- DXによる全業務の効率化(営業支援システムの活用)



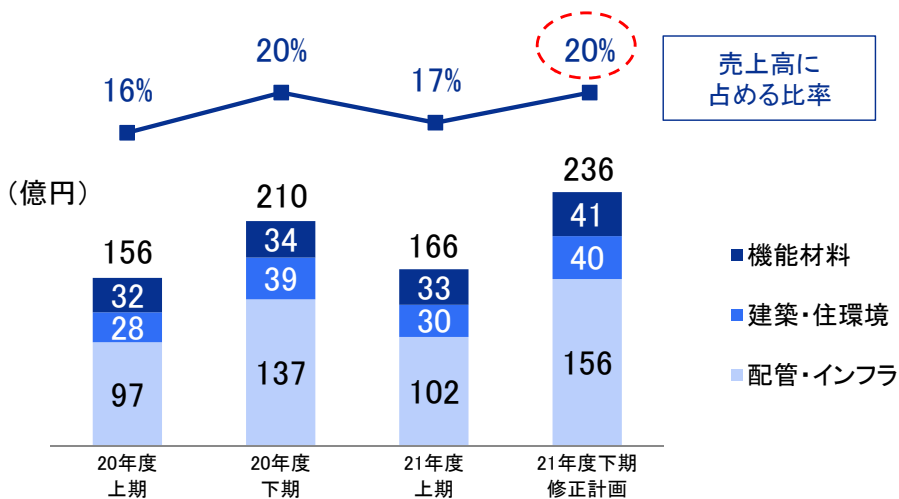
*19年度比のコスト削減額

成長戦略(重点拡大製品、海外)

重点拡大製品の拡販

重点拡大製品売上高(国内)

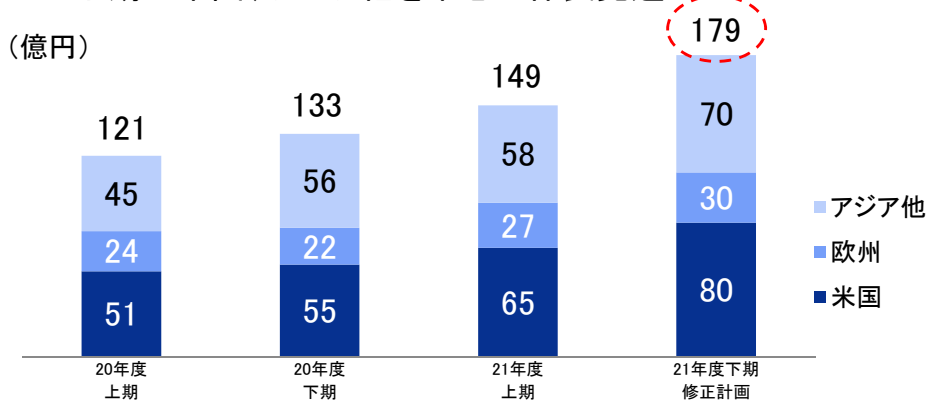
・各分野とも順調に推移。下期も大幅伸長を計画



海外事業の拡大 *国内製品輸出含む

海外地域別売上高

・下期は米国、アジア他を中心に伸長見通し



製品例

気候変動対応

配管・インフラ



高い流下や空気連行の低減という特徴を活かし、集中豪雨対策等へ貢献。高落差処理システム。
【ドロップシャフト】

省人化・易施工

配管・インフラ



耐震型高性能ポリエチレン管。柔軟・軽量を活かし、金属管の代替を実現。
【ハイパーJW】

気候変動対応

建築・住環境



サイフォン式雨水排水システム。配管口径をUPすることなく集中豪雨に対応する排水量を確保。
【大型高排水システム】

成長分野

機能材料



特殊設計された原料使用による、クリーン性能。多層構造により、遮光性能付与し内容液への影響低下。
【高機能成型品】

海外地域別戦略

事業・製品	戦略	欧	米	亜
シート	<ul style="list-style-type: none"> 医療・鉄道向け等への用途展開推進(欧・米) 生産効率改善の継続 	✓	✓	
機能材(FFU)	<ul style="list-style-type: none"> 新規顧客の開拓(米・亜) 欧州生産拠点設立(22年度下期稼働開始予定) 	✓	✓	✓
管路更生	<ul style="list-style-type: none"> より易施工な新製品の導入促進 施工パートナーの拡充と連携強化 		✓	✓
プラント	<ul style="list-style-type: none"> アジア半導体需要の獲得 ベトナムTP社とのシナジー拡大 	✓		✓



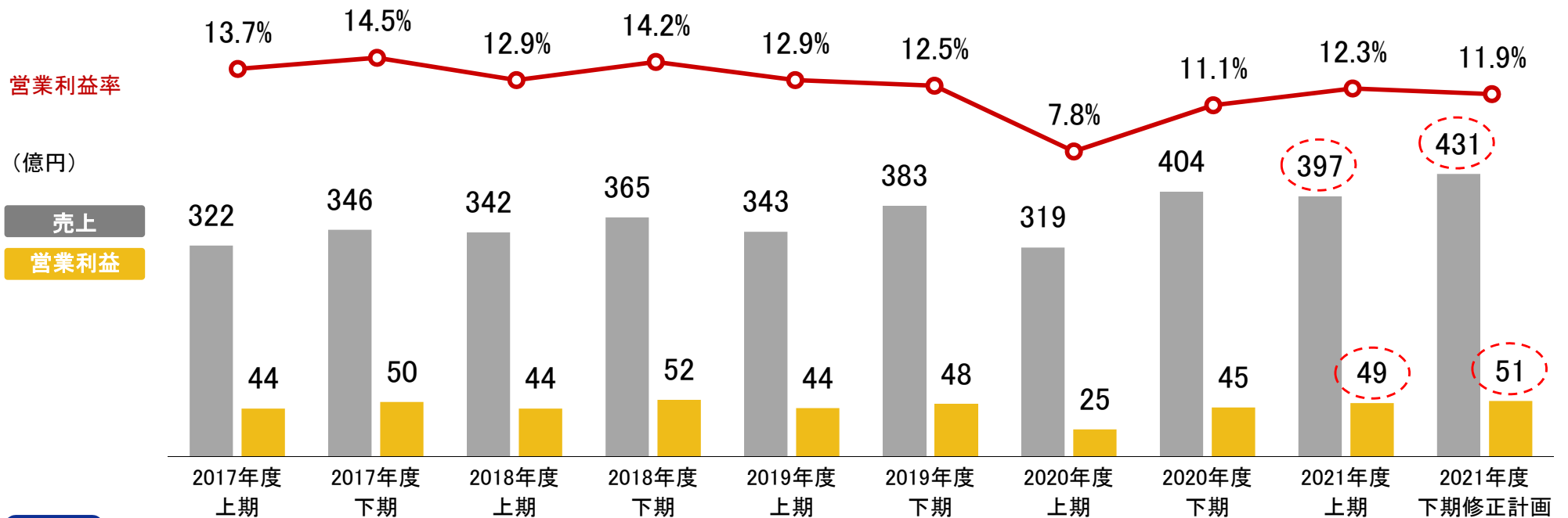
メディカル事業

取締役 専務執行役員
経営戦略部長
上脇 太

2021年度 上期総括・下期見通し

- 上期は、国内外検査需要の順調な回復を背景に大幅増収増益。上期最高益達成
- 下期も、引き続き検査需要の回復、および新規原薬拡販により、期初計画(4月)通り年度営業利益100億円を達成し、最高益更新を目指す

業績推移



主な
M&A・
戦略投資

2017年
ペプチスター社
設立に参画

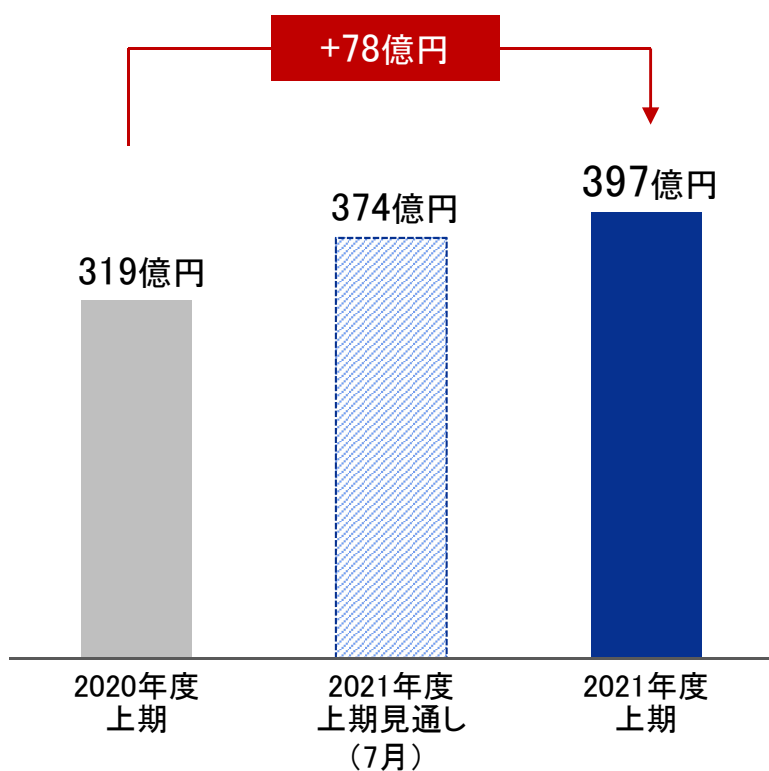
2018年
亜・Veredus
Laboratories社

2020年
医薬品原料の
生産能力増強
決定

2021年度上期 業績分析

- 国内外検査需要の順調な回復により営業利益見通し(7月)を超過達成
- 医療事業は見通し(7月)通り着地

売上高



営業利益増減要因分析

	為替	新規連結等	検査国内	検査海外	医療他	固定費	合計
見通し(7月)	+7	0	+14	+15	+1	▲18	+19
上期増減	+6	0	+17	+14	+1	▲13	+24

	為替	新規連結等	検査国内	検査海外	医療他	固定費	合計
1Q増減	+3	0	+10	+6	0	▲7	+12
2Q増減	+3	0	+7	+8	+2	▲7	+12

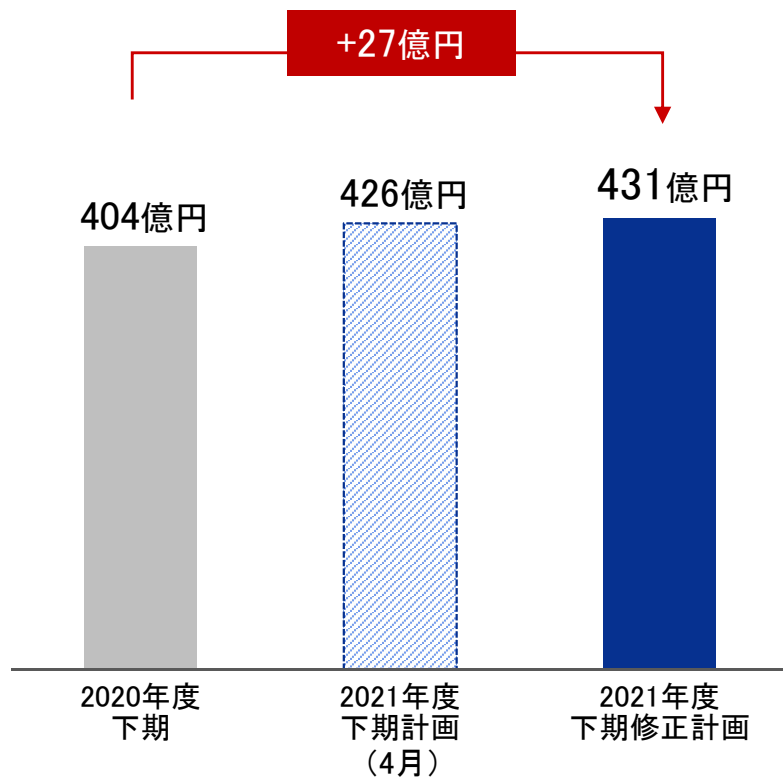
項目	金額 (億円)
2020年度上期	25
増減	+24
2021年度上期	49

欧米+12
中国+1
 労務費▲5
償却費▲1
経費等▲7

2021年度下期修正計画 業績分析

- 検査需要回復継続を背景に、国内外検査事業拡大を見込む。米国での感染症検査需要減も、中国での血液凝固試薬が拡大、新規原薬拡販も寄与し、大幅増収増益見通し
- 年度最高益更新を目指す

売上高

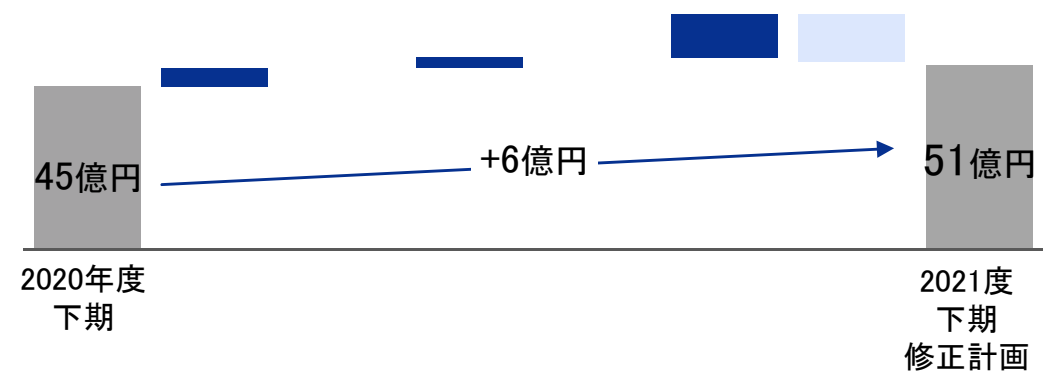


営業利益増減要因分析

	為替	新規連結等	検査国内	検査海外	医療他	固定費	合計
計画(4月)	+2	0	+3	+6	+12	▲13	+11
下期増減修正計画	+5	0	+3	0	+12	▲13	+6

欧米▲7
中国+6

労務費▲11
償却費▲2
経費0

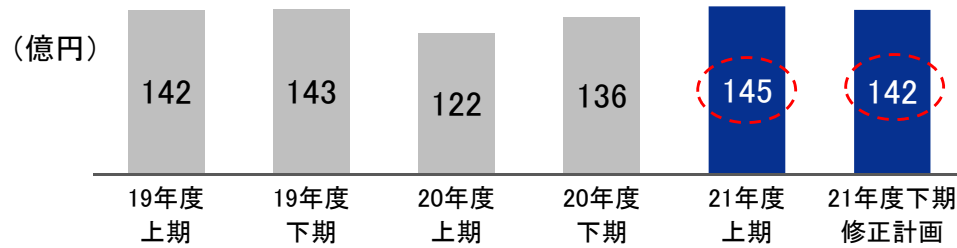


■ 堅調な検査需要に加え、新規原薬も収益貢献。積極投資による成長加速

事業別売上高推移と進捗状況

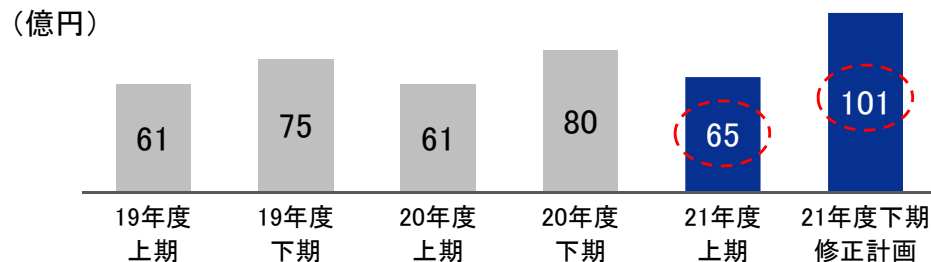
検査国内

- 上期: 市況回復。感染症(RSウイルス)検査需要拡大
- 下期: 市況回復継続。生化・免疫領域拡大継続



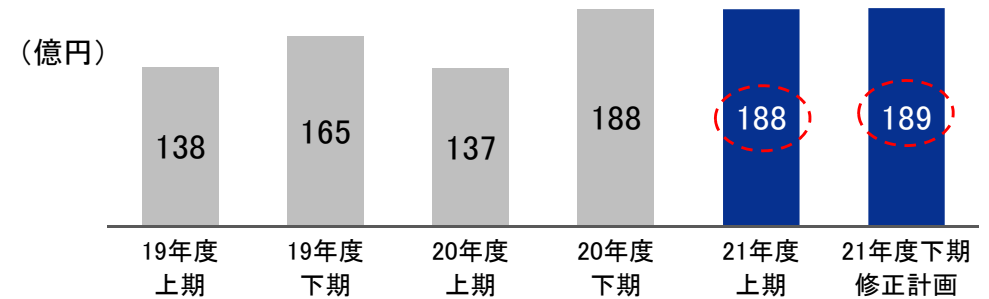
医療(医薬・創薬支援・酵素)

- 上期: 日米とも市況回復により創薬受注回復
- 下期: 計画通り新規原薬が収益貢献。CDMO事業拡大を目指す



検査海外

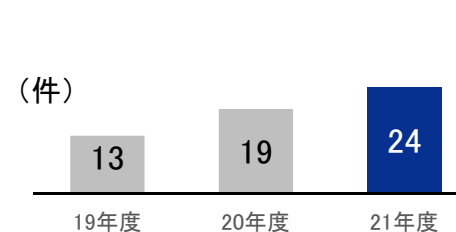
- 上期: 市況回復。COVID-19検査需要が堅調に推移。中国での血液凝固試薬拡大
- 下期: 一定のCOVID-19検査需要を見込む。引き続き、中国での血液凝固試薬拡販加速



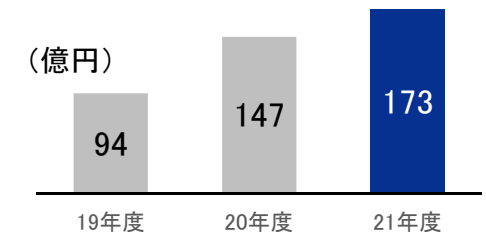
新製品の開発・売上高推移

- COVID-19検査キット(自社品)開発加速。新凝固機器開発完了、3Q上市

新製品上市数



新製品売上高



2021年度第2四半期
決算内容

連結対象会社数と増減影響

連結対象会社数

	2021年3月末	2021年9月末	増減
連結会社	161社	159社	増加 0社 減少 2社*1
持分法会社	8社	8社	増加 0社 減少 0社

*1 Muhan Co., Ltd.、積水集成衛浴(瀋陽)有限公司

連結会社増減等による影響等

	2021年度上期（前年比）	増減
売上高	▲54億円	九州セキスイ商事インフラテック(株)*2 一部事業譲渡*3、
営業利益	0億円	PT.SEKISUI TECHNO MOLDING INDONESIA*4等

*2 2021年4月 積水ヒノマルより社名変更

*3 2020年度第2四半期中に一部事業譲渡

*4 2020年度第4四半期中より連結除外

損益概要

(億円)		2020年度上期	2021年度上期	増減
売上高		4,900	5,479	+579
売上総利益		1,519	1,699	+181
売上総利益率		31.0%	31.0%	0%
販売費および一般管理費		1,295	1,344	+50
営業利益		224	355	+131
持分法投資損益		10	15	+5
その他営業外損益		▲28	39	+67
経常利益		207	410	+203
特別利益		-	221	+221
特別損失		12	507	+494
税引前利益		194	124	▲70
法人税等		57	155	+98
非支配株主に帰属する当期純利益		7	8	+1
親会社株主に帰属する当期純利益		130	▲39	▲169
為替レート (期中平均)	米ドル	107円	110円	
	ユーロ	121円	131円	

株式売却益 +221

Aerospace社
減損損失 +495
 ▶ のれん +374
 ▶ 無形資産 +121

のれん減損 +374は
税効果適用無し

貸借対照表 -資産-

(億円)	2021年 3月末	2021年 9月末	増減
現金及び預金	875	1,361	+486
売上債権	1,706	1,572	▲134
棚卸資産	2,229	2,338	+109
その他流動資産	246	338	+92
有形固定資産	3,514	3,517	+3
無形固定資産	976	459	▲518
投資有価証券	1,747	1,375	▲372
投資その他の資産	209	248	+40
資産合計	11,501	11,208	▲294

棚卸資産(B/S科目)	2021年 9月末	増減
建売住宅(製品)	282	+9
造成済土地(分譲土地)	566	▲22
造成中土地(仕掛品)	121	▲23
工事中住宅(仕掛品)	281	+48
部材等(原材料)	42	+7
住宅計	1,292	+18
非住宅計(製品等)	1,046	+91
棚卸資産計	2,338	+109

Aerospace社減損 ▲495

株式売却 ▲393

為替影響
▶ ▲9 億円
実質: ▲285 億円

貸借対照表 -負債・純資産-

(億円)	2021年3月末	2021年9月末	増減
無利子負債	3,176	3,318	+142
有利子負債	1,382	1,319	▲63
(ネット有利子負債)	(507)	(▲42)	(▲549)
負債合計	4,558	4,636	+79
資本金等	2,090	2,090	0
利益剰余金	4,411	4,177	▲234
自己株式	▲434	▲407	+27
有価証券評価差額金	508	353	▲154
非支配株主持分	273	262	▲11
その他純資産	96	95	0
純資産合計	6,944	6,571	▲372
負債・純資産合計	11,501	11,208	▲294
自己資本比率	58.0%	56.3%	▲1.7%
D/Eレシオ(ネット)	0.08	▲0.01	▲0.08

当期純利益

▲39

配当金支払

▲108

自己株式消却

▲81

消却 +81

取得 ▲56

株式売却

▲155

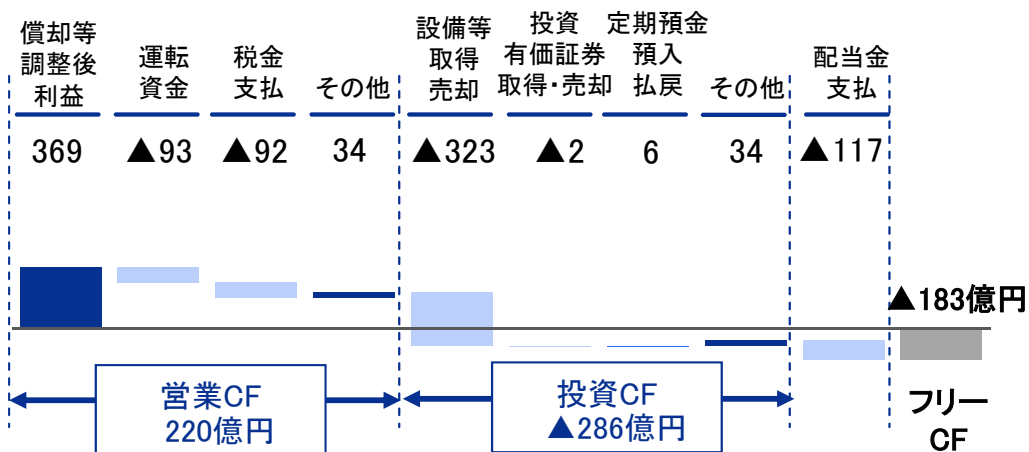
株式時価評価

+5

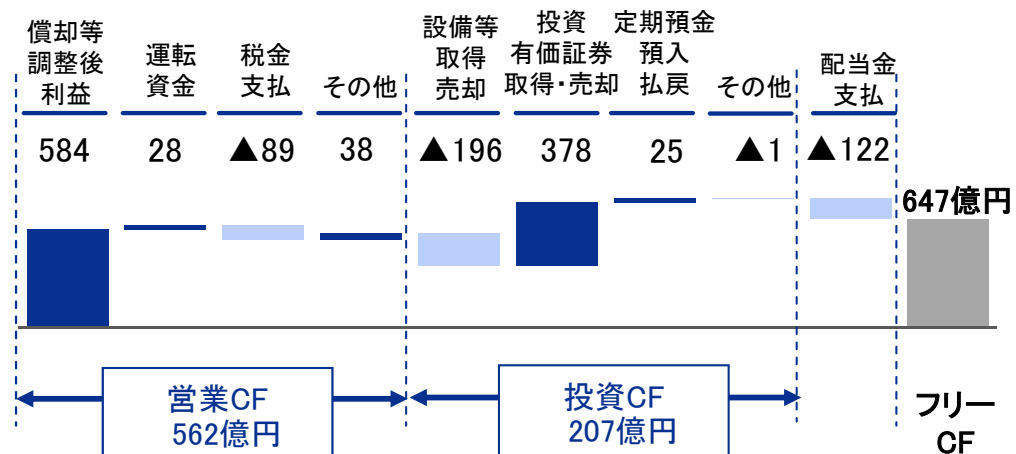
連結キャッシュ・フロー

(億円)	2020年度上期	2021年度上期
営業活動によるキャッシュ・フロー	220	562
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲286	207
財務活動によるキャッシュ・フロー	130	▲257
現金及び現金同等物の増減額	72	509
現金及び現金同等物の期末残高	821	1,276
フリーキャッシュ・フロー ＝営業活動CF＋投資活動CF－配当金支払	▲183	647

2020年度上期 フリーCF



2021年度上期 フリーCF



減価償却費・資本的支出・EBITDA

(億円)	減価償却費*1			のれん等償却費*2			資本的支出			EBITDA*3		
	2020 年度 上期	2021 年度 上期	増減	2020 年度 上期	2021 年度 上期	増減	2020 年度 上期	2021 年度 上期	増減	2020 年度 上期	2021 年度 上期	増減
住宅	48	48	0	-	-	-	67	65	▲2	178	196	+19
環境LL	42	43	+2	-	-	-	100	50	▲49	67	75	+9
高機能P	88	84	▲3	23	23	0	87	86	▲1	202	300	+98
メディカル	18	20	+2	9	9	▲1	20	29	+9	52	78	+25
その他	10	12	+3	0	0	0	25	10	▲15	▲32	▲40	▲8
消去又は 全社	4	6	+2	-	-	-	3	11	+8	▲2	▲9	▲7
合計	209	214	+5	32	32	▲1	302	252	▲50	465	601	+136

*1 減価償却費はM&Aによる無形資産の償却費は含まず

*2 のれん等償却費 = のれん償却費 + M&Aによる無形資産の償却費

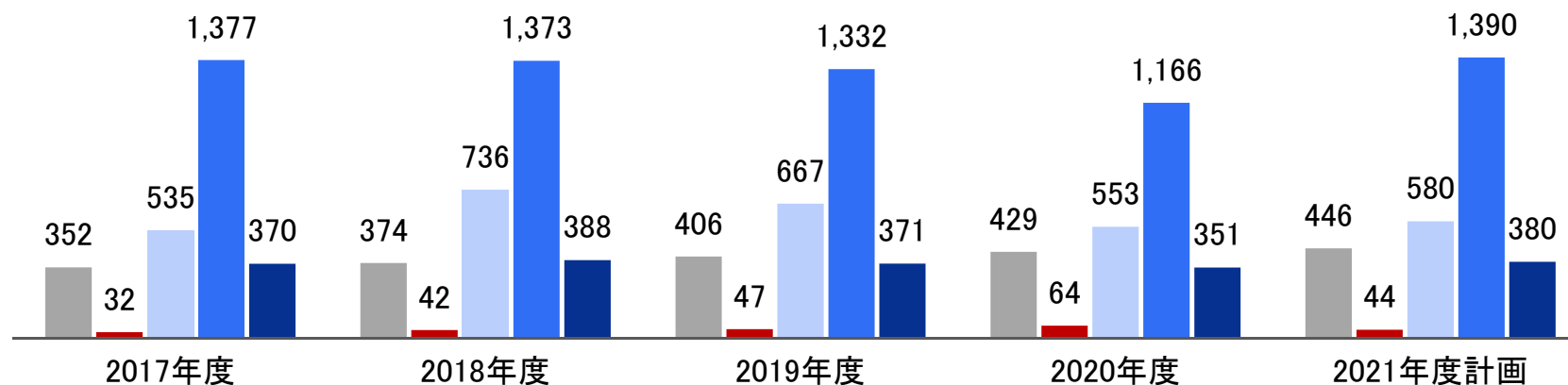
*3 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん等償却費

減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2020年度	2021年度 修正計画	増減
減価償却費	429	446	+17
のれん等償却費	64	44	▲20
資本的支出	553	580	+27
EBITDA	1,166	1,390 (過去最高)	+224
研究開発費	351	380	+29

減価償却費・資本的支出・研究開発費推移

(億円) ■ 減価償却費 ■ のれん等償却費 ■ 資本的支出 ■ EBITDA ■ 研究開発費



スライドに記載されている見込、計画、見通しなど歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいて作成されております。従って、実際の業績は、様々な重要な要素の変化により大きく異なる結果になりうることを、ご承知おきください。

* 本資料の億円表記の数値に関しては、億円未満を四捨五入で表示しています。

住宅カンパニー実績・計画について

1. 住宅事業の主要データ		2021年度			2020年度		
		上期	下期計画	通期計画	上期	下期	通期
連結	売上高(億円)	2,498	2,752	5,250	2,306	2,546	4,853
	住宅	1,716	1,883	3,598	1,612	1,753	3,365
	リフォーム	459	497	956	415	462	876
	その他	324	373	696	280	332	612
	不動産	247	267	514	234	244	477
	住生活サービス	38	42	80	37	41	78
	まちづくり	28	48	76	1	38	39
	海外	6	10	16	6	6	13
その他	1.販売棟数(棟)	5,040	5,630	10,670	4,910	5,245	10,155
	戸建	4,830	5,300	10,130	4,645	4,910	9,555
	請負	4,075	4,520	8,595	4,085	4,250	8,335
	建売	755	780	1,535	560	660	1,220
	アパート等	210	330	540	265	335	600
	2.主なデータ						
	単価<全国販社・戸建>(百万円)	31.6	-	-	31.5	31.1	31.3
	坪単価<全国販社・戸建>(万円)	89.5	-	-	87.8	88.1	87.9
	床面積<全国販社・戸建>(㎡)	116.4	-	-	118.4	116.3	117.4
	展示場数(棟)	436	-	434	439	-	441
営業人員数(人)	2,533	-	2,380	2,612	-	2,451	

住宅カンパニー実績・計画について

2. 受注状況等

(百万円)

	2021年度			2020年度			2019年度		
	上期	下期計画	通期計画	上期	下期	通期	上期	下期	通期
新築・リフォーム 期初受注残	184,800	192,500	-	205,400	194,500	-	219,500	217,320	-
伸び率	▲10%	▲1%	-	▲6%	▲11%	-	+6%	+2%	-
新規受注	200,607	210,052	410,659	175,319	190,806	366,125	203,590	193,472	397,062
伸び率	+14%	+10%	+12%	▲14%	▲1%	▲8%	▲1%	▲11%	▲6%
売上高	192,907	214,852	407,759	186,219	200,506	386,725	205,770	205,392	411,162
伸び率	+4%	+7%	+5%	▲9%	▲2%	▲6%	+3%	▲3%	±0%
期末受注残	192,500	187,700	-	194,500	184,800	-	217,320	205,400	-
伸び率	▲1%	+2%	-	▲11%	▲10%	-	+2%	▲6%	-

3. 住宅着工戸数

(戸)

	2021年度			2020年度			2019年度
	上期	下期計画	通期計画	上期	下期	通期	通期
住宅着工戸数	447,000	445,000	892,000	414,039	398,125	812,164	883,687
上記のうち持家+分譲戸建着工(=A)	220,000	219,000	439,000	195,340	197,108	392,448	429,492
当社戸建販売棟数(=B)	4,830	5,300	10,130	4,645	4,910	9,555	10,200
当社シェア(=B/A)	2.2%	2.4%	2.3%	2.4%	2.5%	2.4%	2.4%

*2021年度上期以降の“住宅着工戸数”と“上記のうち持家分譲戸建着工”は見通し

4. スマート系仕様装着比率

	2021年度			2020年度			2019年度
	上期	下期計画	通期計画	上期	下期	通期	通期
太陽光発電搭載	83%	88%	86%	79%	80%	80%	77%
蓄電池搭載比率	69%	70%	70%	60%	64%	62%	55%
快適エアリー	72%	75%	73%	72%	75%	73%	77%